

522
27
176



始





JULIA, SILVIA, VALENTINE, AND PROTEUS
"The Two Gentlemen of Verona" Act V, Scene IV

From the painting by W. Holman Hunt, O. M.



西園寺の二神古

坪内逍遙譯





From a drawing by Charles Green

THE TWO GENTLEMEN OF VERONA

Speed and Launce

Spe.: "What an ass art thou! I understand thee not."

Laun.: "What a block art thou, that thou canst not! My staff understands me."



Zulia in "The Two Gentlemen of Verona" (Miss Thirza Norman)
"But shall I hear him speak?" Act. IV., Sc. II.

縮
言

一六二三年のフォリオ版全集で初めて公けにされた此作は、『戀の骨折損』や『間ちがひ續き』と同列の修業期の作である。もとより傑作ではなく、又さほど名を知られた作でもない。が、他の同期の作よりも、いろ／＼の點から見て、興味の深い作である。

書きおろしは、早くば一五八九年、晩くも一五九二年ご

ろと推定されるが、前記二作に比して先づ技巧上に一段の進境が見えてをり、而も『ロミオとジュリエット』一篇を除いては、又と見出だされないほどの若々しさが全篇に漲つてをり、且つ在世中に刊行されなかつた臺帳としては、不思議なほど本文の謬脱が少なく、比較的完全な姿で傳はつたものだと言つてよい。それに、アーデン版の本書の校註者ウォリック・ポンド氏の説に據ると、此作は、多分、ヨーロッパに於ける最も古いロマンス風の喜劇の注意すべき代表作であらうといふことである。『戀の骨折損』の如きも幾らかロマンス脈の作ではあるが、警句問答が主となつて、

筋の面白味が乏しく、喜劇としての體式に不具な點が多いが、此作に至つては、専ら事件の興味を中心として作られ、性格描寫には重きを置いてゐない所などが純然たるロマンス式である。さうして其種本となつたロマンスも明かに分つてゐる。それは *La Diana Encamorada* と題したスペイン小説集の第二篇で、其作者はポルチュガル人の *Jorge de Montemayor* (一五二〇年生) である。右の小説集が *Bartholomeu Young* によつて英譯されたのは一五八三年であつたが、それが公刊されたのは同九八年であつたから、若し沙翁の此作の書きおろしが一五九二年よりは晩くなかつたと假定

すると、彼れの材源は右の譯ではなかつたらうといふことになる。併し此同じ原話は、一五八四年に *History of Felix and Platonica* といふ外題で、既に一度劇化されてグリニッチで上演されたといふ説があり、又前記ヤングの譯以前にも又以後にも別譯が——未刊行ではあるが——試みられたとも言はれるから、其梗概ぐらゐるは、其道の者の間には、夙に知れ渡つてゐたでもあらう。或ひは、沙翁は、ヤングの譯を、何等かの手蔓で、其刊行前に、原稿によつて一讀してゐたかも知れない。或ひは又、沙翁は多少スペイン語を讀み得たらしいとも推測されるから、直接に原著に就いて、材を

求めたのであつたかも知れない。

もつとも、例によつて例の如く、此作に取入れられた話柄は右の *Diana* のそればかりではない。リ、ーの『ユーフェーエズ』やシドニーの『アーカディア』やバンデロの *Apollonius und Eylla* から借りて來た部分もある。例へば、女主人公のジューリヤが男装して其不誠實な情郎プローチヤスの侍僮となつて、彼れの新情婦たるシルギヤ姫の許へ求婚の使ひにやられる筋及びプローチヤスからの艶書の事に就いて侍女のルーセッタと問答の件、又、旅館の主人に案内されてプローチヤスの舉動を餘所ながら窺ふ件等は、すべてヤング譯の小説の筋

である。が、プランタインが山賊に強要されて其首領となる事、山賊が學殖ある人物を尊敬する事、プランタインの林中での獨白、或ひは親友が其友を裏切つて其情婦を横取りしようとする事、それが又最後に伸直りする段取等は前記の他の作から取集めて來たものである。但し作者の是等の書に負ふ所は主として筋でありヒントであつて、それを立體的にして劇化したのは彼れ自身の想像の力であることは言ふまでもない。とりわけプランタインに關する部分は、山賊との交渉以外は、悉く沙翁の創意に成つたものらしい。

次に、すべて滑稽諧謔を主とした部分及び滑稽的人物の粧點は、作者の創意であらう。勿論、其滑稽は、今日の標準から見ると、曾我のや以前の大坂俄式のそれとも評さるべきものだが、當時の演劇史實を背景にして批判すると、さすがに沙翁の筆が他の作者らのそれとちがふのが分る。例へば、沙翁出世前の代表喜劇 *Gammer Gurton's Needle* などの滑稽と此作の滑稽とを比べて見ると、そこに雲泥の差がある。イギリスの喜劇は沙翁によつて巨人的の一大踏歩をしたのである。當時一般に行はれてゐた滑稽は今の曲馬團の間狂言か我が太神樂のわるふざけに類す

るものばかりであつたといふから、劇の滑稽脈の高上は沙翁の天才に負ふ所が多かつたのである。

とはいへ、修業期の作だけに、構想上にも、修辭上にも先輩作者、殊にリ、ーの影響が尙ほ著しく、獨創の力が微弱で、筋の類似した後の名作に比較すると、習作らしい弱點が目立つ。例へば、ジュリヤが其侍女ルーセッタと求婚者の品定めをする件は『エニスの商人』のポオシヤの同じ件の粗稿であり、ジュリヤが男裝して其戀ひする男のために仇し女の許へ求婚の使ひにやられる件は『十二夜』のヴィオラの下畫であり、道化方のこゝろ僮ランスは明かに『エニスの商

人のランセロットのデッサンである。其他、大詰のジュリヤには『シムベリン』の大詰のイモーゼン、又低能の武士ツローリオーには同じ作の愚王子クローテンの面影が豫示されてある。是等の諸點によつて、不世出の天才とて、決して一足飛びに傑作、名作を書き得たのでなかつたことが窺はれるのも此作の一興味である。

上演の史實は極めて零碎である。作者の存生中すなはち一五九八年前に、少くとも一回ぐらゐは上演されたでもあらうが、例のミーヤズも何とも言つてゐないし、ヘンス

ローの日記ダイアリーにもペピスのそれにも記事がない。

最古の上演記録は一七六二年十二月のドルーリー・レーンのそれである。その時の臺帳はギクター Victor といふ作者がほしいまゝに改作したものであつたといふ。其次ぎは一七八四年四月のコゼント・ガーズンで、これは原作のまゝ、其次ぎは一七九〇年の一月の同處のそれ、其次ぎは一八〇八年の四月の同處のそれといふ順であるが、此最後の上演には、ギクターの改作を幾分か採用した上に、更に多少の手入れをしたものであつたといふ。主演者はジョン・ケムブルで、主人公のプランタインを勤めた。が、好評ではなかつ

たらしい。

一八二一年には、チャールズ・ケムブルが監督してコゼント・ガーズンで、オペラに引直したものを上演した。見た目専一の見せ物式の華やかさが俗衆を喜ばせて、二十九晩も續演され、大當りであつたが、無論、沙翁作の實演としては、大墮落と評すべきものであつた。Lisson だの *Fauren* だの *Miss M. Tree* などが其演技者として關係した。

原作は、其後、フェルプスがサドラーズ・ウエルズで沙翁劇の復活リバイバルを企てた時に、其出し物の中に加へられ、又、一八九〇年には、ストラットフォードの沙翁記念劇場でも上演された。其際の

主演者は *Osmond Tearle* であつた。

斯く上演史實の零碎なのは、要するに、實演して成功すべき特長が乏しく、どの役にも各優の功名心を唆るに足る見せ場がないからであらう。

大正十五年十一月中旬

余丁町にて

譯者識

登場人名

ミランの公爵、シルギヤ姫の父。

ヴランタイン

ゼローナ市の二紳士。

ブローチヤス

アントーニオー、ブローチヤスの父。

ツィリオー、ヴランタインの競争者にして低能兒。

エグラムーア、シルギヤ姫を駆落ちさする介添へ役を勤む

る一紳士。

旅館の主人、(ジュリーヤの宿れる)。

山賊、刑餘の浮浪人。

スピード、ブランタインの僕。

ランス、ブローチヤスの僕。

パンシーノー、アントーニオーの僕。

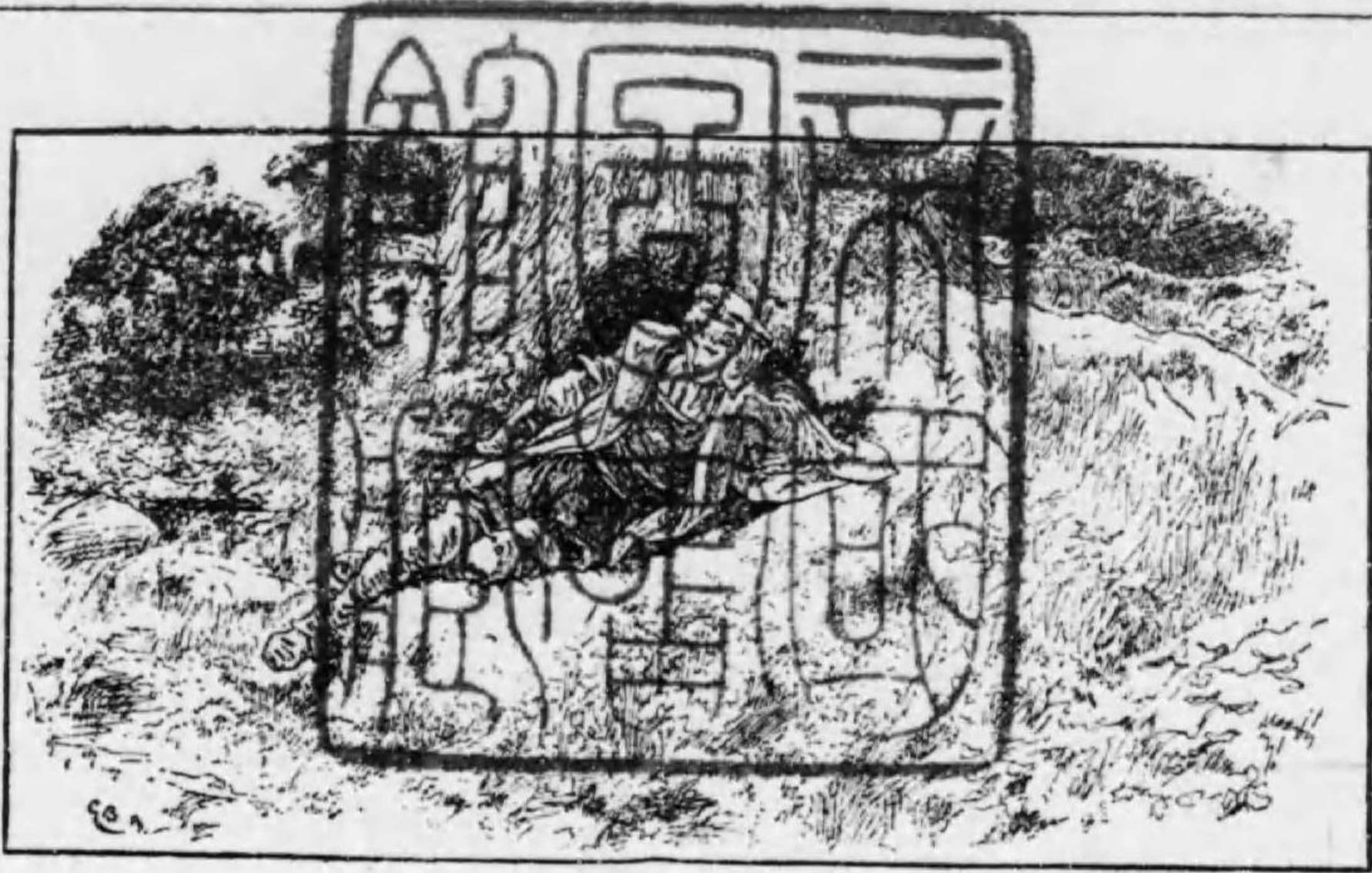
ジュリーヤ、ブローチヤスの情人、處女。

シルギヤ姫、ブランタインの情人。

ルーセッタ、ジュリーヤの侍女。

家僕ら、樂人ら。

場所 エローナ、ミラン及びマンチュアの國境に於ける林中。



第五幕第四場

エローナの二紳士

第一幕

第一場 エローナ 廣々としたる處

フランタインとプローチヤスと出る。

フラン
ねえ、プローチヤス、説得するのは止してくれたまへ、本國にはかりある青年には迎も本當の事は解らないといふから。(外國を見



たことのない青年の智慧は粗末だといふから。僕は寧ろ、若し君の心があのお嬢さんの可愛い流し目に縛り附けられてしまつてゐなけりやア、君をも一緒に連れていつて、海外のいろんな不思議な物を見させたいんだ、これといふ目的もなしで、本國でくづつかしてゐて、空しく青年時代を過させてしまふよりは。けれども君は戀をしてるんだから、其戀をつゞけて、めでたく成功を收めたまへ、僕だつても、若し戀をするやうになりや、おそろくさうなるのを望むだらう。

プロチ
ぢや、どうしても往くのかい？ プランタイン君、御機嫌よう！ 旅で、何か珍らしい物を見た時分には、君の此ブローチヤスを憶ひ出してくれたまへ。嬉しい事があつた時には其幸福を預けさせてくれたまへ。萬一、君が危険な事に出逢ふやうだつたら、其厄難除けの祈りを僕にさせてくれたまへ、僕が祈禱僧の役をするから。

プラン
(戯れて)多分(聖書ではなく)愛情の書(ラヴァブック)で祈つてくれるんだらう？

プロチ
(ぬからず)さア、いづれ愛重してる書で祈るのさ。

プラン
といふのは、例のリヤンダーが(ヒーローに焦れて)ヘレスポイント(の海峡)を泳ぎ越したとか何とかいふ、深い愛の浅い話の本なんだらう。

プロチ
ありや(浅いどころか)深いく愛情の、深刻な話だよ、リヤンダーは深アク戀に落ちてゐたんだから。

プラン
全くだ。現に君なんぞは首ッたけ戀に陥つてゐながら、未だ曾てヘレスポイントを泳ぎ越したことはないからね。

プロチ
女に首ッたけ？ あんまり見くびつてくれたまふな。

プラン
見くびつて見たところで、無駄だ。

プロチ
えり？(なぜ？)

プラン
戀をするのは、呻き苦しんで輕蔑を買ひ、斷腸の歎息で冷かな一瞥を買ふ

ことなのだ。二十夜も起き明かし、待ちくたびれて、やつと儂い一瞬の愉快を買ふことなのだ。運よく手に入れたとして、仕合せな得物であることは先づ稀れであり、手に入らなんだ場合には、骨折損の苦しみ儲けた。要するに、智慧を勞して愚をするか、愚をして智慧を失するかだ。

プロチ 君は、つまるところ(遠廻しに)、僕を馬鹿だといつてるんだね。

ヴラン さア、つまるところ、君が、さうなりやアしないかと心配するのだ。

プロチ 君の罵倒するのは戀だ。併し僕は戀其者ぢやアない。

ヴラン いや、戀は君の主人公だよ。だつて君を支配してるもの。馬鹿の相棒になつてりやア、伶俐と見做されないので普通だらう。

プロチ だつて、君、作者連はいふぢやないか、どんな可憐な蕾をもわるい蟲が食ひ

へらすやうに、どんな聰明な心にもそれを蝕む戀が宿ると?

ヴラン それから、作者連は斯うもいふぜ、どんな早咲きの蕾も、咲かないうちに蟲

にやられると同じに、若い優しい伶俐者も、戀の爲にやア愚になつて、これからといふ春の盛りに、蕾のまゝで枯れて、青い色を、未來の頼もしい美しい望みを、丸ツきりなくしツちまふと。だが、戀の盲信者になつてる君に意見をしてみたつて、暇つぶしだ。ぢや、もう一度、さやうなら! 家が父が港で待つてる筈だ、僕が船へ乗込むのを見送らうといふので。

プロチ ヴランタイン、僕もそこまで送つてゆかうよ。

ヴラン いゝえ、プローチヤス君。こゝで別れることにしよう。ねえ、ミランへ、

手紙で以て君の戀の成行をはじめ其他僕のゐない間に起る新事件を知らせてくれたまへ。僕も僕のはうの事を知らせるから。

プロチ ミランにゐる間、君が悉く幸福であるやうに!

ヴラン 國にゐる君も同様であるやうに! ぢや、御機嫌よう!

ヴランタイン 入る。

プロチ (後ろ影を見送りつゝ) 彼れは名譽
を漁り、おれは戀を漁る。彼
れは友だちに光りを添へよう
とて、友だちを振捨て、行く。
おれは自分をも友だちをも、何
もかも、戀の爲には捨てる。お
い、ジューリヤ、卿は僕をまる
で異つた人間にしつちまつた
よ。學問は怠る、時を無駄に過
す、忠告には逆らふ、世の中を
物ともせない。瞑想の爲に心
を鈍らせてしまひ、物思ひの爲



に病的になつてしまつた。

グラントインの僕スピード出る。

スピー プローチヤスさま、御機嫌よろしう！ 手前の主人にお逢ひなさいませんでしたか？

プロチ つい今別れてゆきなすつたよ、ミランへ乗込むつて。

スピー ぢや、十が九つ、もう乗船なすつたでせう、見失つた手前は好い羊(愚物)でし

た。
プロチ なるほど、羊はとかく彷徨ひ出すやつだて、牧者がゐないと。

スピー とおつしやると、手前の旦那が牧者で、手前が羊てとになりますんす
ね？

プロチ さうだ。

スピー それだと、手前の角は旦那の角てことになります、手前が寤きてゐようと、

寐ねてるようにと。

プロチ 愚シブ者らしい馬鹿はかな答こたへだ。

スビー とおつしやると、やッぱり手前てまへが羊シブだてことになります。

プロチ その通りとほ。さうしておまひの旦那だんなは牧者かひぬしだ。

スビー いや、そんなことはありませんや。立派りっぱに證據しやうこ立て、御覽ごらんに入いれます。

プロチ それを又また、おれが證據しやうこを舉あげて、必ず論破ろんぱするよ。

スビー ねえ、もし、牧者かひぬしは羊シブを捜さがしますが、羊シブは牧者かひぬしを捜さがしやしませんでせう。と

ころが、手前てまへは旦那だんなを捜さがして、旦那だんなが手前てまへを捜さがしてゐるんぢやありませんぜ。だから、手前てまへは羊シブぢやございませんや。

プロチ いや、羊シブは飼葉かひはが欲ほしさに牧者かひぬしの後あとを追おふ。牧者かひぬしが餌えを求もとめて羊シブの後あとを

追おふてことはない。おまひは給金きよんが欲ほしさに旦那だんなに従ついてあるくだらう、おまひの旦那だんなが給金きよんの爲ためにおまひに従つき廻まはるといふことはあるまい。だ

から、おまひは羊シブだ。

スビー (言いひ負おされながら、てれかくしに) へん、又またとそんな證明しやうめいを聞きかされりやア、わた

しは(羊シブのやうに)バーと鳴なぎますぜ。

プロチ (話頭わだかまを轉まじて)だがね、おい〜！ おれの手紙てがみをジューリヤへわたしてく

れたかい？

スビー へい。迷まよひ羊シブの手前てまへがあの迷まよはせ羊シブさんへお手紙てがみをあげましたがね、迷まよ

はせ羊シブさんは、迷まよひ羊シブの手前てまへへ、其骨折料そのほねをりれうなんか少すこウしも下くださいませんや。

「迷まよはせ羊シブさん」の原語げんごは "laced mutton" 其解そのかいがいろいろである。 "courtesan wearing a nightg laced bodice" と解かいした例れいもある。譯やくは "ワオーバートンの "fine piece of woman's flesh" といふ解かいによつて語呂ごろを活いかすのを主しゆとした。

プロチ (貨幣かへいを幾いくらか取出しゆして)、こりや、牧まきとしては、その羊シブ共にやあんまり少ちよつ々過びりぎ

るけれど、ま、取ツときな。

スピー もし牧場が狭過ぎますなら、やつ(あの雌羊)アお突きなさいましよ。

「突く」とは「突き殺す」の意。こゝでは別の卑猥な意味をも含めていふ。

プロチ いや、そんなことをいふのは逸れ羊だ、(愚物の證據だ)、早速收檻(打擲)すべきだ。

スピー いえ、なに、ほんのお手紙をお届けしたゞけです、磅頂戴には及びません。

プロチ 取違へてるよ。おれのいふパウンドは逸れ羊を收れる家畜欄のことだ。

スピー おやゝ、磅が針になつた！ 針を幾倍にしたつて、艶書のお使ひ賃にや少な過ぎます。

プロチ 時に、あれは何てツたい？

こゝでスピードが先づ無言で點頭いて見せる。とプローチヤ

スが思はず釣込まれて同じく一つ點頭く。と

スピー あい。(aj)。

プロチ 點頭に……ajだ？……ノッドにアイなら nod-aj だ、noddly (間抜け)だ。

スピー 違います。點頭なすつたのはお嬢さんですよ。ね、あなたが點頭いたかとお聞きなすつたでせう？で、(然り)と御返事をしたのですよ。

プロチ だから、其二つを合せりや間抜けにならアな。

スピー 合せなくつてもいゝものをばお合せなすつたんだ。お骨折料にそれを取つておきなさいまし。

プロチ いやゝ、おまひ取つていけよ、手紙を持つてつた駄賃だ。

スピー (言ひ負かされて)逆もあなたにや叶はないから、うけたまはつておきませう。

プロチ どううけたまはつておくり？

スピー 御文言通りにです。命のまゝにでき。だつて、下さる骨折賃からが「間

抜けッてお言葉だけでござんせう。

プロチ おまひは中々すばしッこい頓智者だ。

スピ― でも逆もお巾著の緩漫さによ及びませんや。

プロチ おい〜、手短かに事情を打明けてくれ。え、何といつたい彼女は？

スピ― ま、お巾著の口をお開けなさいまし、さうすりや事情もお金も一しよに御出産でござ。

プロチ ちや、これが骨折賃だ。(と又六片ほどの貨幣を與へて)え、何といつたい？

スピ― どうも中々お手には入りますまいよ。

プロチ え、そんな點まで見附けたか？

スピ― なアに、何にも目附けやしません、只の一兩だけでも戴きやしませんや、お手紙はお渡し爲ましたけれど。お傳言を持つてつた者にあゝ世智辛いお嬢さんであつて見ると、御直談に對しても同断でせうぜ。若し何かお呈げに

なるなら、石(寶石)がようござんせう、鋼鐵よろしくのお嬢さんですから。

プロチ 何とかいつたらうに。え、何にもいはなかつた？

スピ― いゝえ、何にも。「御苦勞だつたね、駄賃に是れを」とさへもね。あなたは、お禮を申します、お氣前がいゝ、其證據には小貨(六片)を下さいました。そのお禮に、もうこれからは御自身で手紙を持つていらつしやいました。……では、主人へよろしく申し傳へます。

と言ひすて、往きかけるのへ、怒つて聞えよがしに。

プロチ 往け〜、早く往つて船を助ける、汝が乗込んでりや難船する氣遣ひはない、汝は陸で干乾しにされる筈の奴(絞罪にされべき悪黨)だから。

スピ― 入る。

改めて好い使をやらなけりやいけないわい。あんな野郎が持つてつたから、ジュ―リヤが書を喜んで受取らなかつたらしい。

第二場 同處 ジューリヤの家の庭園

ジューリヤ嬢と侍女のルーセッタが出る。

ジューリ ルーセッタや、二人きりだから、お言ひな。ちや、おまひは、わたしに好きな方をきめろといふの？

ルーセ はい。うつかりしていらしつて、とんでもない方をお好き遊ばすといけませんから。

ジューリ 毎日、内へいらしつて、わたしとお話をなさるあの立派なお人たちのうちで、おまひはどの方をわたしの一等好きな方にして當然だと思ひたい？
ルーセ お名前をおつしやつて下さいまし、おろかな、淺はかな智慧相應な考へを申し上げませうから。

ジューリ 御容子のよい士爵エグラムーアさんはどう？
ルーセ 御辯舌がよくて、お身綺麗で、お洒落さんでいらつしやいますこと。けども、わたくしがあなたなら、好きな方にはしません。
ジューリ お金持のマーケーシオーさんをどう思つて？
ルーセ お財はけつこうですけれど、お人柄は、まアあの、でございますわ。
ジューリ あの柔らかなブローチヤスさんをどう思つて？
ルーセ あら、まア、ほんとに！ わたしたちは何てまア馬鹿なんでせう！
ジューリ どうしたの？ なぜそんなに騒ぐの、ブローチヤスさんの名をいつたばかしたのに！
ルーセ お嬢さま、御免遊ばせ。ほんとにわたくし恥知らずでございますのよ、足らはん此身をば思はないで、御容子のよいお方々の御批評なんかいたしませんのは。

ジュリ

なぜブローチヤスさんだけしないの、外の人はみんな評をした癖に？

ルーセ

ちや、斯うでございます……大勢のよい方のうちで、あの方は一等よい方と存じます。

ジュリ

その理由は？

ルーセ

理由は、女の理由だけですの、さう存じますから、さう存じますのです。

ジュリ

で、おまひ、あの方をわたしに好きになれといふの？

ルーセ

はい、つまらない方をお配偶になさるまいといふ御料簡なら。

ジュリ

だつて、あの方だけは、曾ぞわたしへお言ひ寄りになつたことがないわ。

ルーセ

でも、あの方は、どの方よりも一等あなたを愛していらつしやいますのよ。

ジュリ

あの方が少ウしゝか口をきかないのは、少ウしゝか愛してくれない證據だと思ふわ。

ルーセ

狭いところに閉籠めてあります火が、一等強く燃えていますよ。

ジュリ

愛を外へ見せないやうな人達は、愛しちやゐないのよ。

ルーセ

いゝえゝ、他に愛を知らせますやうちや、深い愛がございませぬのですわ。

ジュリ

わたしあの方が心が知りたい。

ルーセ

ちや(と艶書を一通出して)このお文をお読み遊ばせ。

ジュリ

(受取つて)「ジュリーヤさまへ」……え、だれから？

ルーセ

中をお読みになりや解ります。

ジュリ

おい、だれから受取つたのさ？

ルーセ

ブランドインさまのお小奴さんから。ブローチヤスさんからでせう。あなたへお手渡しなさるお積りでしたらうけれど、わたしがちやうど居合せましたものですから、御名代になつて受取りました。どうぞ不都合をお赦し下さいまし。

ジュリ　　まア、呆れた、立派な慶菴さんよおまひは！ 平氣でみだらな文なんか預つて来て、小さい聲をして若いわたしを唆かさうとするのかい？ ほんとにけつこうなお役目だわねえ、さうしておまひによく似合ふわよ。さ、この手紙をお取り。先方へ戻しとくれ。戻さなけりや、二度とわたしの前へ来ることはなりません。

ルーセ　　愛の爲にお勤めしてゐますのに、其御報酬がお憎しみぢや、埋りませんわ。

ジュリ　　おまひ去かない？

ルーセ　　ゆきます、御熟考をおさせ申すためにね。

はひ
入る。

ジュリ　　（見送つて）でも、あの文は讀んで見たかつた。けれども彼女を呼戻して、今叱つて突返したものを、頼んで見せて貰ふのは恥かしい。彼女は何て馬鹿だらう、わたしが處女だてことを知つてゐながら、無理にあの艶書を見せ

ようともしない！ 處女てものは恥しがつて、諾といつてるのだと先方に思つて貰ひたい時にも、否といふものなのに。ほんとに、此戀といふものほど馬鹿らしい、剛情な、愚かなものはありやしない、怒りッぽい赤んぼのやうに乳母を引掻いたりなんかするけれど、すぐ負けッちまつて、嫉棒をキッスするのよ！ 口ぎたなくルーセッタを叱りつけて、おッ拂つたけれども、實はこゝにをらせたかつたのだわ！ 怒つて、眉に八の字をこさへて見せたけれども、實は嬉しくつて、笑ひたかつた！ 罪ほろぼしにルーセッタを呼び戻して、わるかつたといつてわびませう。…おうい、こらよ！
ルーセッタ出る。

ルーセ　　お嬢さま、御用でございますか？

ジュリ　　もうぢきき食事時かい？

ルーセ さア、どうか早く物を召し上げる時刻になればよいと存じます。お腹がお忙しかつたら、女中へお腹をお立て遊ばすお暇なんかございますまいから。

と言ふ拍子に、わざと先刻の文を取落して、わざと念入りに読んで、ゆつくり拾ふ。

ジュリ 何をそんなに馬鹿丁寧に拾つてるの？

ルーセ 何でもございませぬの。

ジュリ ちや、なぜ屈んだのだい？

ルーセ 落した文を拾つたのでございます。

ジュリ 文が何でもないものと言へますか？

ルーセ わたくしに關係したものでちやないのでございますもの。

ジュリ ちや、その關係したところにおゝきよ。そこに臥せて(ライさせて)おゝき。

ルーセ お嬢さま、いゝえ、決して關係した處で嘘を附く(ライする)やうな文ちやご

ジュリ ざいませぬ、勘たがへをなさる方さへなければ。

ルーセ おまひのいゝ人か何か、歌でも書いてよこした文なの？

ジュリ はい、調子に合わせて唱ひますやうに。調をお定め下さいまし。譜はお嬢

さまのお好み次第です。

ジュリ わたしそんなくだらない事は成るッたけしないの。「軽い戀路」の調子か何

かでおやり、それが一等いゝわ。

ルーセ あんな軽い調子には、文句に重味があり過ぎますわ。

ジュリ 重過ぎる？ ちや、囃子詞(お荷物)が添はつてるの？

ルーセ はい。あなたが歌ひになりや、そりや好い調べでございませうよ。

ジュリ おまひがなぜ歌はない？

ルーセ わたくしには逆も歌へませぬの、あんな高尚なのは。

ジュリ その歌をお見せよ。……(ルーセツタが中々見せない。で、焦れて)え、どうしたの、

此意地わるが!

と平手で頬を一つ打つ。

ルーセ すつとお歌ひ遊ばさうお積りなら、そんなに調子をお狂はせなすつちやい
けませんねえ。ですが、わたくし、どうもそのお調子は好きませんわ。

ジュリ 好かない?

ルーセ はい、好きません。烈過ぎますもの。(と當附ける)。

ジュリ (怒つて) 此意地わるが! おまひは生意氣過ぎるよ。

ルーセ (守まして) さア、こんどは又無愛想過ぎますよ、折角のいゝ音楽がそんな荒ッ
ッばい調子をお出しになると、いけなくなッちまひますの。中音でお歌ひ
にならなけりやいけません。

ジュリ 中音なんか消されッちまふわ、おまひが太い聲(ベース)でがみくゝいふから。
ルーセ なるほど、わたくしはプローチヤスさまの爲に出發戲をいたしかけてゐま

したつけ。

「出發戲」は、くはしくは「捕虜出發點競戲」といふ兒童の遊戯。
ニヶ所に出發點を設けて、その二點より同距離の或地點へ
さして、甲乙の兒童が同時に駆け出し、甲を追はるゝ者乙を
追ふ者とし、元の出發點へ戻る能はざるうちに捕へらるれ
ば捕虜と定めて、更に又別の地點に幽閉し、それを取戻すた
めの第二次の競走をはじむる遊戯。本文の意は低音とい
ふ語に因みて、地口として使つたまで、ある。

ジュリ もう二度とそんなくだらないお喋舌はさせませんよ。……こんなつまらな
いことを並べ立てた、人騒せなもの! (と文を引裂いて抛り出す)。去ッておしま
ひ。……文はそこにおいてさ。拾つたり何かすると、おこりますよ。
ルーセ (傍わざツと駭いてゐるのだけ。實はもう一度文が来て、もう一度あゝい

ふ風におこりたいのよ。實際、わたしだつて、あんな文を貰つて、あんな風におこつて見たいわ。

「實際、わたしだつて云々の一句をジュリーヤの語とするのが通例だが、ルーセツタの語としたはうが妥當である。スタントンの解に従ふ。」



ジュリ

(破いた文をながめて) お、此憎い手め、あんな可愛らしい文を裂きをつた！ 邪まな非道な黄蜂め、あんなに甘い蜜を貰つて食べながら、それをくれた蜂を殺すとは！ その埋め合せに、千裂れた紙に接吻しませ

う。あら、こゝに「情の深いジュリーヤさん」と書いてある。情なしのジュリーヤめ！ 不人情に冷遇しをつた仕返しに、此名を石へ投げ付けて疵だらけにして、おまひを輕蔑して踏みにじつてやるわ。……こゝには「戀に傷つけるプローチヤス」と書いてある。あゝ、お氣の毒な傷をお受けになつたお名前！ 此胸を寢臺にして傷がすつかり治るまで休んでいらつしやいね。さ、斯うして大妙藥のキツスで探りを入れませう。だが、こゝにも、こゝにもプローチヤスと書いたのがあるわ。あゝ、風よ、しづかにおし、一語でも吹き散らしておくれでない、文の中の語を、わたしの名の外は、残らず寄せ集めたいからよ。わたしの名は旋風が來て、怖ろしい海岸の岩の上へでも持つてけ、さうして荒海へ抛り込んでしまへ！ あら、ここに一行の中にあの方の名が二度も書いてあるわ。「あはれなる不仕合せなプローチヤス、戀に狂へるプローチヤスより愛らしきジュリーヤ君へ。」

……こりや裂いてしまはう。……でも、ま、裂かないでおかう、こんなにつくしく、泣いておいでの御自分の名と一しよに並べて、お書きになつて
るもの。かうして上へ重ね合せて、疊んでおきませう。さア、キッスする
なり、抱くなり、摺み合ひをするなり、勝手なことをおし。

ルーセッタ 出る。

ルーセ お嬢さま、お食事の用意が出来ました。お父さまがお待ちでございます。

ジュリ ちや、ゆきませう。

ルーセ おや、そのお文がらを、告げ口をしろといはぬばかりに、そこに遺してお
きになるのですか？

ジュリ 氣になるなら、拾つてゆくがいわ。

ルーセ さつきは、それをおッことして、とんだお小言を拾ひましたつけ。でも、さ
うしといて風を引かしちやなりませんわねえ。(と拾ひ集める)。

ジュリ おまひは其文に一月心を持つてると見えるねえ。

「一月心」は懐胎の臨月に婦人が果物を熱心に求むるにも
とづきて、女性の熱望の義に通用すともいひ、懐胎の第一月
の懸念を指すともいふ。

ルーセ はい、お嬢さま、御覽になつたら、何となくおつしやいませ。わたくしだ
つて目がありますわ、見えないとおぼしめすかも知れませんが。

ジュリ (てれかくしに) さ、さ。ゆきませうよ！
入る。

第三場 同處 アントーニオーの家

アントーニオーと其僕マンシノー出る。

アント おい、パンシノー、そりや一體どんな重大な話だった、兄貴が修道院で汝を引留めて話したといふのは？

パンシ あのお方の甥御様のお宅の若さまの事に就いてございます。はてな、倅の事で何をいつたか？

パンシ お兄様はあなた様が若旦那様の若盛りをお國で過させておしまひなさいますのを不思議がつておいでになりました。あんまり名のない他の方でさへ、御子息を外國へお遣はしになりますのに、或ひは戦中へ、そこで運だめしをなさるために、或ひは遠い海へ、島を發見けに、或ひは又大學校へ、學問をしに。そのどれにも、いや、そのすべての修行に若旦那プロチャス様は適しておいでなさるのに、とおつしやいまして、若い肝腎な時に旅をしたともなく、本國でばかり世を過してしまふのは、老後の大きな嘲り

アント だといふことを、煩くもあなた様へ申上げろとお吩咐けでございました。

パンシ いや、くどくいふには及ばん、その事はおれも此月はじめから、つくづく考へ考へしてゐたのだ。おれも世間へ出て、試されたり教へられたりせないぢやア、若い時が無駄になる、完全な人間になり得ない道理だと考へてゐた。経験は勉強で獲られて、さうして迅速な時の進みの間に完成される。

パンシ とところで、どこへ遣つたら一等いゝと汝は思ふか？
殿にはとうに御承知の筈でございますが、お友だちのプランタインさまは、ミランの朝廷で皇帝様にお仕へでございませう。

アント そりやよく知つてる。

パンシ その朝廷へ若様をお送りになりますのが結構でございませう。試合や調練のお稽古も出来ず、巧妙な御辯論をお聴きになることも出来ず、お若い紳士たる御身分柄に相當した御修行課目は、何もかもお目に入りま

す。

アント その意見氣に入つた。至極もつともな忠告だ。氣に入つた證據を見せるために、早速その通りを實行する、大急ぎで倅を皇帝の朝廷へ遣はすことにしよう。

パンシ いかゞさまでございませう、明日、アルフォンゾーさまが、他の立派なお方と御一しよに、皇帝様へ御敬禮のため又御奉仕のために御出發になりまますさうでございませうが。

アント そりや好い同伴者だ。その人達と一しよに遣らう。……(一方を見て)あ、ちやうどいゝ！ 倅に此事を話さう。

ブローチヤスがジュリーヤの返事を黙讀しつゝ出る。

ブロチ 可愛い戀人！ 可愛い文句！ 可愛い命！ こゝにあれの自筆がある、あれの心の代理なんだ是れが。こゝに彼女の名譽を抵當にした誓言がある。

アント おゝ、家父て者が倅や女の戀に賛同して同意を以て幸福を確定してくれるといゝになア！ おゝ、何ともいはれないジュリーヤ！

ブロチ おい、これ、どうしたのだ？ その讀んである手紙は何だ？

アント はい、お父さま、これはその、ブランタインから、一寸その、申してよこしたのです、彼れの友人てイのが持つて来てくれたのです。

ブロチ その手紙をお貸し。どういふ珍聞が書いてあるか見たい。

アント 珍聞はありませんよ。たゞその、幸福に暮してゐる、みんなに愛されてゐる、毎日皇帝の恩恵をいたゞいてゐる、就いては其幸運を願はくはわたくしに願ちたいと書いてあるのです。

ブロチ その彼れの願望に對して、おまひはどう感ずる？ 應じたいと思ふかね？

アント わたくしに取つては、父上の御意が第一です、友人の願望なんかよりも。

ブロチ おれの意志は彼れの願望とはゞ一致してる。かう突然に言ひ出すからツ

て驚く。俺が欲する以上は、それで結著だ。おれは汝を、プランタインと共に皇帝の朝廷で、當分暮らさせるつもりだ。彼れが其友人連から送つて貰つてゐるだけの給費は、おれが汝へ送つてやる。明日出立の出来るやうにしておきな。かれこれいふな、斷然もう決めたのだから。

プロチ (驚いて) お父さま、さう急には用意が出来ませんよ。どうか一日か二日御猶豫を願ひます。

アント いや、入用な物なんかは後から送つてやる。もう猶豫はゆるさん！ 明日是非立て。……さ、さ、パンシノー。汝には、倅の此急な出立を早くさすために、いろ／＼用がある。

二人入る。

プロチ (呆れて) 火傷をすまいとて火を避けたが、海へ落ッこちて溺死者になつた格だ。家父にジュリーリヤの文を見せりやきッと戀の邪魔をするだらうと思つ



て、いゝ加減の事をいつたら、それが先方の利になつて、戀をまるツきり邪魔されツちまつた。あゝ、おれの此初戀の春景色は變り易い四月空と來てゐる、つい今がたまで麗々と美しく晴れてゐたが、もうぢきに曇ツちまふのだ！

パンシノー出る。

パンシ プローチヤスさま、お父さまがお召しです。大層お急ぎでございますから、どうぞすぐいら

つしやいまして。

プロチ さア、それはだ。心は諾といつてゐるけれど、千たびも否だと返辭をしてゐる。

はひ入る。

*
*
*
*
*
*
*
*
*
*

第二幕

第一場 ミラン 公爵の邸

フランタインと其僕スピードが出る。

スピー もし、お手袋。

と女子用の手袋をさし出す。

ヴラン (見送りながら)おれのぢやないよ。おれのは著用濟みだ。

スピー ぢや、いよくあなたのでございますよ、こりや一對でございますから。

on と one との發音が當時は同じくounであつたところからの

洒落である。シエークスピヤは「戀の骨折損」でも同じ洒落を使つてゐる。按ふに、一般に行はれた洒落なのであらう。

ワラン え！ 見せろ。……あゝ、くれろ、そりやおれのだ。……（キッスするやうにして）
おゝ、神聖なる君の可憐な裝飾品！ あゝ、シルギヤさん、シルギヤさん！

スピ― （わざと聞きちがへた思入で、一方に向つて、大きな聲で）もしく、シルギヤさま！
シルギヤさま！

ワラン （驚いて）どうしたのだ？

スピ― （すまして）近所においでになりませんよ。

ワラン （呆れて）だれがシルギヤさんと呼べといつた？

スピ― あなたさまが。間違ひましたか？

ワラン いつも汝は氣が早過ぎて困る。

スピ― でも、つい先刻は緩過ぎるといふお小言を頂戴しました。

ワラン 馬鹿が！……おい、汝はシルギヤ姫を知つてゐるのか？

スピ― あなたが戀しておいでになるお方でございませう？

ワラン どうしてそれを知つてるんだ？

スピ― そりやその、いろんな特別な徴候で分りますよ。先づ、あなたが、あのブローチヤスさまと同じに、不平家さんらしく手をお組みになります、駒鳥よろしくの色ッぽい鼻歌をお歌ひになります、時疫に罹つた人のやうに、一人きりでお歩きになります、ABCの書を失した小學生徒のやうに溜息をなさいます、お祖母さんを見送つて来た小娘のやうにお泣きになる、限食中の病人のやうに物は食らない、押込みを恐れてる人のやうに徹夜をなさる、衆聖節の乞食のやうに鼻聲で物をおつしやる。以前は、お笑ひなさりや雄鶏の鳴くやうであり、お歩きなさりやロンドン塔のあの獅子が歩き出したやうであり、物を食らないのは、つい今御馳走をあがつた後、鬱いで

いらつしやるのは、お金のない時ばかりでございました。それが今は、お好きなお方が出来ましたゝめに、すつかり變つておしまひになりました、お見上げ申して、旦那さまとは存ぜられない程でございます。

ブラン
さういふ事がおれの行爲内に見えるかい？（おれがそんな變な舉動をするかい？）
スピー
いゝえ（以内ぢやございません）あなた以外に見えますよ。（外面に歴々と見えてゐます。）

“withouts” 即ち「外」、*“without”* 「無關係」等の多義を含む語を駄洒落の骨子とした此問答は到底譯しやうがない。止むを得ず、ほゞ逐語譯にして原文の趣きを暗示するにとゞめる。原文其物が決して巧妙ではない。

ブラン
おれ以外に？（おれとは關係なしに？）そんな筈はない。

スピー
あなた以外にですって？ いや、そりや慥かでございますよ、あなたが痴け

たをなさいません以上は、いや、以外は、だれの目にも附きツニアござんせんからね。ですが、あなたは全く痴けたこと以外に御存在でございませす、ですから其御不在中に痴けたことめが入り込みまして尿器の中の小水よろしくと光るんですから、だれの目にだつて、お醫者同様、あなたの御病症がわかりますんですよ。

ブラン
だが、おい、汝はシルギヤ姫を知つてるのか？

スピー
あなたが疑と視詰めておいでなさいますあのお方でございませう、御夕食に御同席なさいますと？

ブラン
それを観たか？ うん、そのお姫さんをいふのだ。

スピー
なアに、存じちゃあません。

ブラン
おれが見詰めてゐるのを知つてゐながら、知らんてイのは？

スピー
むづかしい顔をなすつていらつしやるお方ぢやありませんか？

ワラン さア、綺麗さは、標致ほどに存分ぢやアない。

スピー そりやよく解つてまさ。

ワラン よく解つてるとは何が？

スピー あなたが存分お慕ひなさる程にお綺麗ぢやないてことを。

ワラン さうぢやアない。おれは、あのお姫さんは非常に綺麗だ、けれども其標致に至つては、更に無量無数だといつてゐるのだ。

スピー といふのは、一方は(綺麗なのは)濃塗だからで、一方は(標致が無量なのは)勘定以外だからでございます。

ワラン どうして濃塗だ？ どうして勘定以外だ？

スピー はて、濃塗で美しく見せてゐるのですから、だアれも、美人の勘定内へは入れませんや。

ワラン ぢや、おれにや目が無いと思つてゐるのか？ おれはあのお姫さんを勘定内

に入れてるぞ。

スピー あなたはまだあのお方が變な風におなんなすつたのを御存じないのですよ。

ワラン え、いつからそんな風に？

スピー あなたがお惚れなすつてからです。

ワラン おれは初めて逢つた時に惚れた。さうして今でもやっぱり美しく見える。惚れておいでなすつちや見えやしません。

ワラン なぜ？

スピー だつて戀は盲でさ。あ、手前の目をさしあげたい。でなきや、あのブローチヤスさまが長靴下の紐を垂らして出歩いていらしたのをお叱りなさいました時通りに、其お目が光つてゐるといふのに！

ワラン さうだつたら、どうだ？

スピー さうだつたら、御自分の馬鹿らしさも、あのお姫さんの逆も不具だてこともお見えになりませう。といふのは、惚れてる人て者は細袴の紐を見る目さへありませんや。そこで、あなたも惚れておいで、すから、細袴を満足にお穿きなさることが出来ますまい。

ブラン ちゃ、多分汝もだれかに惚れてるな。なぜなら、此間の朝、汝はおれの靴を拭く目さへなかつたぜ。

スピー 全くです。寢臺に惚れてましたのです。(眠くてたまりませんでした。)有りがたうございます、手前の一件をみツしりお仕置き下さいましたから、手前も御遠慮なしにあなた様のをわらく申します。

ブラン 之を要するに、おれはあの姫を愛する心を變へない。
「變へない」を「買へない」といふ意味に曲解して

スピー 賣れないとおつしやりやいゝのに。さうすりやそんなお心持は自然と廢

りませうよ。

原文は stand に對して set (seat) といふ語を用ひて、一種の駄洒落を構成してゐるが、此譯の如くにしても、餘り惜くもない原文である。

ブラン ゆうべ、姫がおれに、其愛人へ送る歌を書いてくれと頼んだ。

スピー でお書きになりましたか？

ブラン うん。

スピー 跣足調てやつちやございませんか？

ブラン うんにや、出来るだけ巧く書いた積りだ。(一方を見て) シッ！ 姫が来た。

スピー (傍) おゝ、すてきな操り！ 滅法界もないお偶人さんだ！ さア、これから

説明が始まるんだ。

愛人同士が囁き合ふのを無言の偶人劇に比するのが例で

あるが、こゝでは姫のしゃならくと出て来た姿態を評した言葉。當時の操りには映畫に於ける辯士に類する説明者が附屬してゐた。こゝではグランタインが姫を迎へて愛想をいふのを説明者の口上に比したのである。

シルギヤ 姫出る。

ワラン

お姫さま、御主君さま、お早ござういます！ 千たびも御機嫌よろしう！

と恭しく敬禮する。
愛敬する貴婦人を「御主君さま」と尊稱し、自己を「御家來」と謙稱するは勳爵士道以來の慣例で、事實上は同輩である場合にも此稱を用ひた。で婦人の方からは其家來といふ稱を「わが戀人」といふ程の意味に使用する例であつた。つまり、封建時代の繁文褥禮の餘波である。次ぎのスピードの傍白はその煩褥を嘲る語は

スピー (傍) おゝ、(もう一つお負けに) 今晚の御幸運をだ！ 御作法の千萬だらと來てゐる！

シルギ わたしの家來のワランタインさん、あなたへも二千たび御機嫌よろしうよ！

スピー (傍) ちやア旦那も張込まんけりやなるまい、女からは利附きでよこしてる。

ワラン お吩咐でしたから、名のない、内密の御親友とやらへのお文を書きました。心は甚だ進みませんでした、御家來としての務めでございますから。(と文を呈する)。

シルギ ありがたう、家來さん。(文を受取つて一寸見て) 書記役らしくよく書いてあります。

ワラン お姫さん、眞にやツと書きましたのですよ。といふのはどなたへのお文か

シルギ も知れないのですから、まア、いゝ比加減に書きました、あやふやに。あなたにはまア、其お骨折を、大層お氣になさいましたやうね。

ワラン

いゝえ〜。お役に立ちさへすりや幾らでも書きます。お吩咐下さいまし、更に千通でも書きます。けれども……

シルギ

うまくお言ひ止めになつてよ！ 其後の白を當てませうか？ けれども、言ひますまい。……けれども、かまはないわ。……けれども是れが御返辭です……「けれども有りがたう。」といふのは、もう二度とは御面倒は掛けませんといふ意味ですの。

スピー

(傍)ヘン、けれどもまだ何か言ひたいのでせう。まだけれどもが出さうだ。

ワラン

お言葉の意味がわかりません。文句がお氣に入りませんか？

シルギ

いゝえ〜。上手に書いてありますわ。けれども厭々お書きになつたのだから、これはお戻し爲ます。(文を返さうとする、ワランタイムは受取るまいとする)。いゝえ、お取り下さい。

ワラン

いゝえ、そりやあなたのお爲に書きましたのですから。

シルギ

そりやさうよ。あなたがお書きになつたのよ、わたしが頼みして。けれどもわたしは要りませんの。ですから是れはあなたのですの。わたしはもつと感動さすやうに書いて貰ひたかつたわ。

ワラン

では、お姫さん、別にもう一通書きませう。

シルギ

さうしてそれが書けたら、読んで見て下さいな、わたしの爲に。さうしてそれがあなたのお氣に入りや、あの、何だし、入らなけりや、やッぱりその、何よ。

ワラン

わたくしの氣に入つたら、どうなのですか？

シルギ

お氣に入つたら、それをお骨折賃にお取りなさいまし。……では、御機嫌よう！

はひ
入る。

スピー

(獨語的に)おゝ、此洒落は解らんわい、見えんわい、目附からんわい、顔の中

央の鼻よろしく、塔の頂上の風見よろしくて格だ！ 旦那があのお姫さんを口説く。と、お姫さんが其口説き手に教へる、旦那はお姫さんの弟子なのだが、あべこべに、教師におなりなさいと教へてゐるんだ。あゝ素敵な趣向だ！ こんな旨い話が今までにあつたか知らん、旦那が其書き役になつて、御自分のところへの艶書を書く！

ワラン おい、どうした？ 何を獨りで、理窟(リーズン)を捏ねてるんだ？

スピー なアに、手前は、一寸その、律語(ライム)を作つてたばかりです。理窟はあなたの方です。

ワラン どういふ理窟が？

スピー あなたにはシルギヤさまのお名代だといふ一つの理窟があります。

ワラン お名代？ 何の用で、どこへ往くんだ？

スピー あなた御自身のところへ。お姫さんは謎であなたを口説いてゐなさるので

す。

ワラン ファイガーで？ どんな数字で？

スピー 数字でぢやありません、文字で以て。

ワラン 書面なんか書いてよこしやしないよ。

スピー その必要はありませんや、あなたにお書かせなすつたんですもの。其洒落

にお氣が付きませんか？

ワラン わからないよ、眞實、全く。

スピー 無いよ、眞實は、あなたの本音でせう。ですが、あの方の眞劍(cynical)さはお

解りになりましたらう？

ワラン アーネスト？ いゝえ、豫告らしいものは、何にも受取らんよ。怒つたら

しい捨白を聞いたばかりだ。

スピー だつて、お文をお渡しになりましたぜ。

ヴラン ありやおれが書いた姫の愛人への文だ。

スピー あの文をお渡しになりさへすりや、それでいゝのです。

ヴラン 果してそれッきりで済めばいゝが。

スピー 大丈夫上等です。と申すのはです、あなたは何度もお文をお送りになりま

したのでせう、ところが、お姫さんは、恥かしいか、でなきや、お暇が無いかで、

御返辭をおよこしにならなかつたのです。或ひは、使ひぢや人に知られる

心配があるといふので、御愛人への文といふのを、其御本人のあなたに教

へて、お書かせなすつたのですよ。こりや活版的でさ、(間違ひッこはありませ

んや)、活版的に(たしかに)発見したんですからね。何を呆れていらつしやい

ます? もうお食事時ですよ。

ヴラン おれやもう澤山だ。(愛人の顔を食べたので。)

スピー ですが、まア、お聞きなさいまし。戀て七色蜥蜴は空気を食つて生きてる

といひますが、手前なんかは、やッぱり肉類がいたゞきたうございますよ。
おゝ、あなたのお好きな方のやう(に冷酷でなく、どうかまア御同情下さい
まして、(何か食さして下さい)どうかまア。

とヴランタイムンを促し立てゝ入る。

第二場 エローナ ジュリーヤの家

プローチヤスとジュリーヤが出る。

プロチ ねえ、ジュリーヤさん、辛抱して下さい。

ジュリ 諾、します、しかたがなけりや。

プロチ 歸られるやうになりや、すぐ歸りますよ。

ジュリ お心さへ變らなけりや、成るだけ早く歸つて下さるでせう。ねえ、これを記念にして頂戴。あなたのジューリヤのために。

と指輪をわたす。

プロチ ちや、交換しませう。(自分のを脱して)これを取つとつて下さい。

ジュリ ねえ、キッスをして此取換へッスを確めて下さいな。

プロチ (握手して)此手がわたしの心の變らないといふ保證です。ジューリヤ、若し一日に只の一時間でも、僕があなたを思つて溜息しない時があつたら、其次ぎの時間には何か災厄が起つて、戀人を忘れた罪で、僕を苦めてくれ! …… 家父が僕の往くのを待つてる。…… 返辭するにや及ばん。…… もう出潮だらう。…… いゝえ、涙の出潮は困るねえ。そんな出潮を見ると、いつまでもこゝにゐたくなッちまふ。…… ジューリヤ、さやうなら。……

ジューリヤ 泣くくく入る。

おや、一言もいはないで、往ッちまつたのか? あゝ、さうあるのが眞實の愛なのだ。物がいはれないのだ。眞實は言葉では飾り得られない立派な實行を有つてるのだ。

パンシノー 出る。

パンシ プローチヤスさま、お父さまがお待ちかねでございます。

プロチ 往け。すぐに往くから、すばりに。あゝあゝ! 別れの悲しさの爲に、二人とも啞子になッちまふ。

入る。

第三場 同處 街上

プローチヤスの僕のランスといふ青年が犬を牽いてめそゝ泣

きながら出る。

ランス

おれがまだ泣き切ツちまはない中に、一時間経ツちまはア。ランス血統の者はみんな此弱點を有つてるんだ。……おれは今度、あの(バイアル中の)放膽息子(放蕩息子)のやうに、損得分(相續分)てやつを貰つて、ブローチヤスさまのお伴をして帝宮さまのそこへ往くことになつたんだが、おれの此クラブ



て犬めは、又とない意固地な、無愛想な野郎らしい。お袋は泣く、親父は唸る、妹はわめく、婢は吠る、猫は手を絞る、家中が大亂脈で最中に、此酷い野郎め、涙一粒落しやアがらない。こいつア石だ、さッれ石野郎だ、犬以

上の人情なんか持つちやアわがらない。猶人だつて、此別れにや泣いてくれたらう。現に、おれの祖母は目がないのだけれど、別れとむながつて、盲泣きに(滅多無性に)泣いた。君、(と観客に向つて)其時の様子を見せよう。……此靴が親父だぜ。いや、此左の靴が親父だ。いや、此左の靴はお袋だ、いや、それもいけないや。さうだ、こいつア底がいけない。穴があいてゐる。此穴のあいてる方がお袋だ。で、こつちが親父だ。どツ畜生め！これでいゝんだ。そこで、此杖が妹だ。妹は百合のやうに白くツて、棒のやうに細短いからなア。此帽子が婢のナンだ。おれが犬だ。いや、犬はあいつだからして、おれが犬だ。……いや、犬はおれだ、さうしておれはおれだ。さうだ、それでいゝんだ。そこで、おれが親父のそばへ往つて、お父さん、祝福して下さいといふ。ところが、此靴は泣いてゐて、一言も言ひ得ない。で、おれが親父に接吻する。と、なほ親父は泣く。それから、

おれがお袋のそばへ往く。お、(と靴を抱いて)物を言つてくれりやアい、
のに、氣ちがひのやうに!……で、おれがキッスをする。ま、斯うだ。あ
あ、まるでお袋の息づかひだ。それから、妹のそばへ往く。やつめ、あ
んな聲をして泣いてゐらア。ところで、犬めはだ、其間涙一粒落しやアが
らない、只の一言だつて言はない。……どうだ、おれの涙で以て埃が鎮ツち
まつたわな。

パンシノー出る。

パンシ

ランス、ゆきなく、早く船へ! 旦那はもう乗つたぜ。權でおツかけな

けりやならんぜ。おや、どうしたのだ? なぜ泣んだ? 馬鹿、早く往き

な! くづツかしてると、潮時(き)を失しツちまふぜ。

ランス

被縛者(き)なんか失なつてもかまはん。此犬は、縛られてたやつのうち

で、一等情のないやつなんだから。

パンシ

情のない潮時てのは何だい?

ランス

こゝに縛つて連れてゐるおれの犬のクラブの事よ。

パンシ

馬鹿な、おれは出潮をなくするよといつてるのだ。出潮をなくすりや、外

國へ往かれなくなる、外國へ往かれなけりや、旦那をなくする、旦那をなく

すりや、奉公口がなくなる、奉公口がなくなりや……なぜおれの口を壓へ

るのだ?

ランス

喋舌り過ぎて舌を失しさうだからよ。

パンシ

おれが舌を失する? 何で?

ランス

話だよ。

パンシ

なにツ、尻で!

と蹴る。

ランス

あゝあゝ、出潮をなくして、外國行きをなくして、旦那をなくして、奉公口

をなくして、縛られ(犬)をなくするッて！ だつて、おれア、若し河が乾上つてりや、涙で以てそれを一ぱいにもしてくれるのに、風が吹きやんでりや、溜息で以て船を突ばらせてくれるのに。

パンシ さ、さ、早く往きなよ。おい、是非呼んで来いと吩咐けられたんだよ。

ランス 何となと呼ぶが、いや、勝手な名で。

パンシ (目に角を立て) 往かない？

ランス (凹んで) ぢや、いかう。

ふしやうく入る。

第四場 ミラン 公爵邸

シルギヤ、グランタイン、ツリーオー及びスピード出る。

シルギ 家来や！

グラン 御用でございますか？

睦しげに二人だけ別になつて私語する。それをツリーオーが妬ましげに見やつてゐる。

スピー (グランタインのそばへ進みて小聲で) 旦那、ツリーオーさんが睨んでゐますよ。

グラン うん、ありや戀の故だ。

スピー だつて、あなたを戀してゐなされるんぢやござんせんや。

グラン ぢや、姫さんをだ。

スピー なぐりつけておやんなさるがようございます。

スピード入る。

シルギ 家来さんや、あなたはふさいであるのね。

ワラン なるほど、さうも見えませう。

シルギ 實はさうでないの？

ワラン はい、多分。

ツーリ (聞えよがしに)それが偽物の定例だ。(表面と實際との違つてるのが)。

ワラン あなたが正にそれだ。

ツーリ (聞き替めて)え、どうわしが實際とちがつて見えるね？

ワラン お聰明に見えます。

ツーリ わしが聰明でないといふ證據があるかね？

ワラン 愚劣な事をなさるからね。

ツーリ わしのどことが愚劣かね？

ワラン 先づ、あなたの長胴著がです。

ツーリ わしの長胴著は下胴著だよ。

ワラン ぢやア、愚劣さが二重だともいへます。

ツーリ (氣色ばんで)なんだと？

シルギ (制して)おや、ツーリオーさん、怒つて！ あら、顔の色まで變へて？

ワラン うツちやつておゝきなさいまし。此男は七色蜥蜴の類ひですよ。

ツーリ (いよく怒つて)しかし空氣なんかよりや、汝の生血が吸つてくれたい。

ワラン いや、よくいはれました。

ツーリ 言つたばかりぢやないぞ、爲もするぞよ今度は。

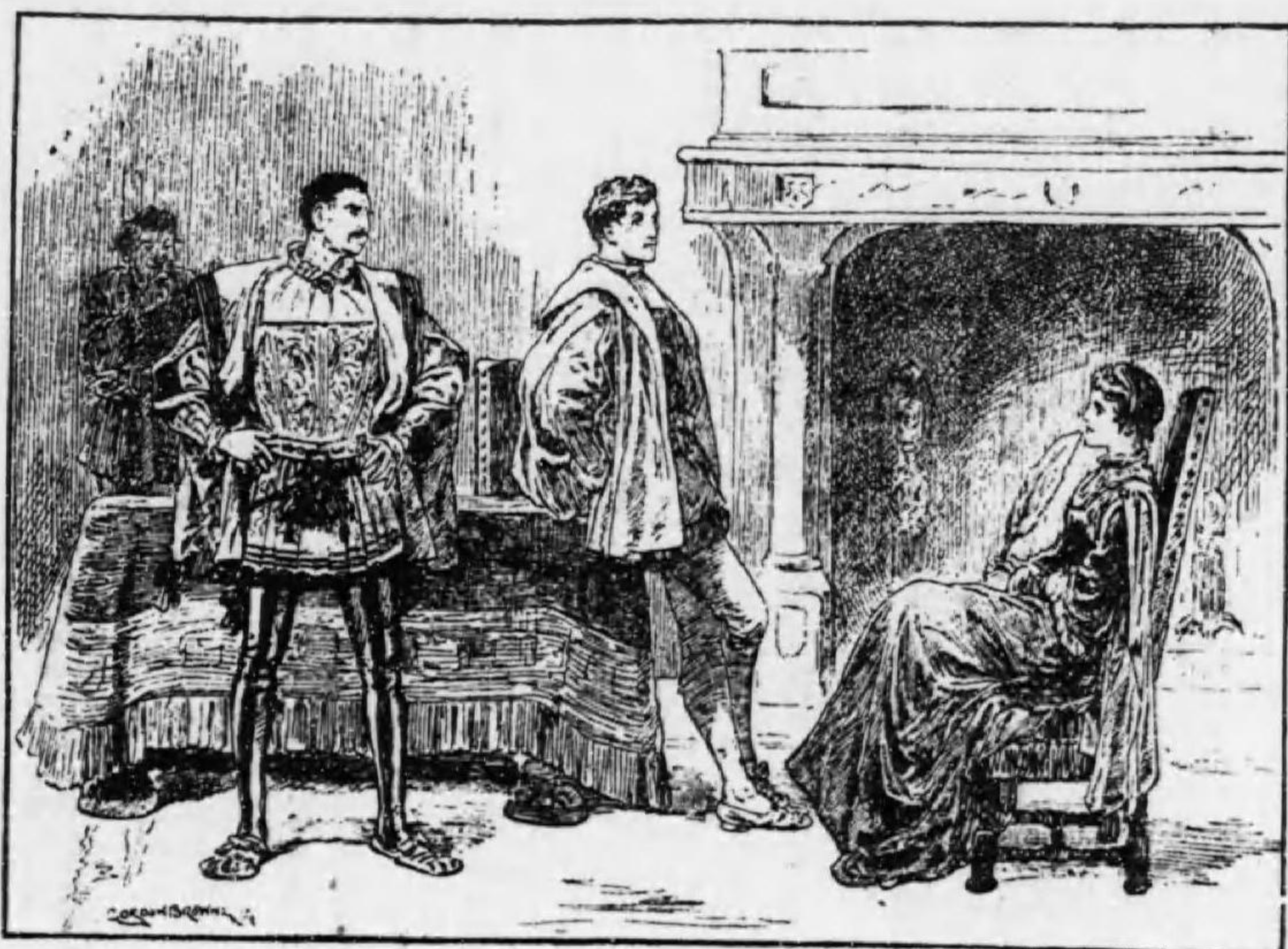
ワラン そりや心得てますよ。あんたは、いつも、爲始めないうちにお終ひですよ。

シルギ まア、お二人とも警句の連發ねえ、而も速射的に。

ワラン 全くです。で、それを下すつたお方に感謝します。

シルギ だれがくれました？

ワラン あなたがです、お姫さん。火種を下すつたのですよ。ツーリオー君の頓



智は悉くあなたのお顔から借り出したのです。(あなたの美に鼓舞されて無い智慧を絞つてゐるのです。)で、特別にお前で、如何にも有りがたく(下手々々と使用してゐるのです、感謝的に。

ツリー

おい、(生意氣に)一々返答なんかしようとする、君の頓智は破産しッちまふぞ。

フラン

そりやよく心得てますよ。あなたは言葉の大藏省だ。言葉だけがあなたの財産だ。だから、あ

たの家来たちは酷い制服を著てまさ、遣はす〜といふお言葉だけを貰つてゐるんですから。

シルギ

(制して)お二人とも、もうお止めなさい。……父が来ました。

公爵出る。

公爵

シルギヤや、(若人たちに)ひどく責められてゐるなう。……フランタイン君、あなたの父さんは健康ださうだ。友人たちからめでたい便りがあつたよ。どうだ、嬉しいかね?

フラン

よい知らせを承はりますのは、有りがたい仕合せでございます。

公爵

君の國の者で、ドン・アントーニオーといふのを知つてゐますか?

フラン

はい、それは立派な、名の聞えた且つそれに相當した功績のある人物でございます。

公爵

息子があるかい?

ワラン

はい、ございます。さういふ父に當然重んぜられ又愛さるべき子息です。

公爵

君はその息子をよく知つてゐるのか？

ワラン

自身も同様に存じてゐます。と申すのは、幼少からの友達でして、始終一しよにゐました。わたくしは道草くひの懶惰者で、若いうちに修行をして、天使のやうな完人にならうなぞといふ念もなくしてゐましたが、士爵ブローチヤスは……それが其者の名です……常に時日を正しく使用しました。で、齡は若くても經驗には古い、腦は未熟でも分別は熟してゐます。要するに、わたくしの此賞讃は、到底彼れの眞價値を評し盡すに足りません。彼れは容姿、才能共に、凡そ紳士を飾るに足るあらゆる美性を備へ盡してゐます。

公爵

やれ、果して其通りなら、其男は女帝の愛人としても當然だし、皇帝の顧問官としても適任だといへる、ところで、其仁がわしのところへ來るん

ワラン

だ、有名な王侯からの推薦状を持つて。さうして暫く此地に滞在しようといふのだ。こりや君にやア不愉快な知らせぢやなからう。

公爵

さやう、あの男に會ひますのは、最も望む所でございます。

ぢや、其仁を其人柄相當に歓迎しなさい。シルギヤ、これはあんとツ

ーリオー君にいふのだ。ワランタインには敢て言ふに及ばん。すぐに

其仁をあんたのそこへよこすから。

公爵入る。

ワラン

(シルギヤに)それがあなたにお話した、わたくしと一しよに來させようとした友人です、けれども其好きな娘といふのが其水晶のやうな目の中へ彼れの目を禁錮してしまつたのでした。

シルギ

多分其娘さんが解放したのでせう、眞實の保證に、何か別の物を抵當に取つて。

ワラン いゝえ、まだく捕虜にしてゐませうよ。

シルギ ぢや、其方はお旨さんでせう(目を禁錮されておいてなのなら)。 どうしてこゝまで歩いて見えたでせう、あなたの跡を追つて?

ワラン だつて、戀は目を二十對も有つてゐるといひます。

ツーリ (横合から) いゝや、戀にはまるツきり目が無いといつてある。

ワラン さア、ツーリオ、あんたのやうな戀人を見る目はねえ。 つまらない者には、戀は目をふさぐんです。

ツーリオ 又氣色ばむ。

シルギ (制して) もうお止しなさいよ、もう!……(一方を見て) あれが其方でせう?

ブローチヤス 出る。

ワラン や、ブローチヤス君、ようこそ!…… 姫君さま、どうぞ特別の御恩寵を持らまして、彼れを御歡迎下さいまし。

シルギ 若しも此方が、あなたが便りがあればよいと折々お噂なすつた方ですな

ら、勿論、御歡迎をせねばならない立派なお方ですわ。

ワラン お姫さま、はい、その友人なのです。 どうか、わたくしの同僚の御家來とおぼしめしましてお抱へ下さいまし。

シルギ わたし、かういふ高級な家來の主人としては、あんまり低級過ぎますのよ。

ブローチ どういたしまして。 かやうな立派な御主人様にお目見えをいたしまするには、御家來があんまり粗末過ぎます。

ワラン 卑下のなさりあひはお止しなさい。 お姫さん、御家來にお抱へ下さいまし。

ブローチ 只もう忠義をするのを此身の誇りといたしますでございませう。

シルギ 其忠義に對しては、きつとお報いをいたします。 家來さん、不束な主人の
とこへ、よう来て下さいました。

プロチ 餘人がさやうなことを申しますれば、手前は此命を賭します。

シルギ よう来て下さいました、といへばですか？

プロチ いゝえ、不束な主人なぞと申せばです。

此時一僕出る。

僕 お姫さま、お父上さまが何か御用でございます。

シルギ すぐ往きます。(僕入る)。さ、さ、ツリーオーさん、一しよに往きませう。……

新參の家來さん、改めて言ひます、ようこそ。お國のお話をたんなさい

まし。それが濟んでから、御返辭を聞きませう。

プロチ いづれ揃つてお前へ参ります。

シルギヤと共にツリーオー入る。

ワラン ところで、國の人たちはどうしてゐます？

プロチ 君の友だちはみんな丈夫です、くれぐれもよろしくといはれました。

ワラン 君の友人たちは？

プロチ みんな健康です。

ワラン ジューリヤさんは？ 君の戀愛事件の成績は？

プロチ 僕が戀愛談をすると、君はいつも厭がった。さういふ話の嫌ひな人だ君は。

ワラン さうだつた。けれども、ブローチヤス、今は變つたよ。戀を侮蔑したのを今は頻りに後悔してゐるんだ。もうその、戀の罰が當つて、專制的な物思ひのため、斷食をする、難行苦行をして唸き苦しむ、毎晩涙を流す、毎日痛心の溜息をする。といふのは、戀めが、輕蔑された返報に、奴隷となつた僕の目から睡眠をおッ拂つて、しよつちう斷腸の物思ひで以て寝ずの番をさせることになつたからだ。お、ブローチヤス君、戀は強大な君主だ、すつかり僕を服従させてしまつた。彼れの懲罰ほど辛いものは又とない、彼れに仕

へるほど嬉しいことは世の中にない。今は戀の外にや話はないのだ。今は、只戀とさへ聞きや、斷食を破つて、中食もする、夕食もする、眠りもするよ。

プロチ わかつた。もう其運命をば君の目色で讀んでゐたんだ。……彼女が君の拜んでる佛様なのかい？

ウラン その通り。え、まるで天人のやうな聖女だらう？

プロチ 天人ぢやアないが、人間界の絶品だねえ。

ウラン 神さまのやうだといつてくれたまへ。

プロチ おベツかるのはいやだよ。

ウラン 僕にいつてくれといふのさ。美められたいのが戀だよ。

プロチ 僕がわづらつてた時分に、君は苦い薬ばかりくれた。だから、君にも同じ處方をやらなけりやならん。

ウラン ぢや、本當のところだけでい。神さまでないまでも、せめて第七級天使

だといつてくれたまへ、下界のあらゆる人間以上の。

プロチ 僕の愛人だけは除外してね。

ウラン 一の除外もなしに。除外があるやうぢやア、僕の愛人に何か足らんところがあることになるから。

プロチ だつて、先づ僕のを推選すべき理由があるもの。

ウラン いや、君のをいづれ推薦して名譽職に就かせるよ、お姫さんの裾を褰げる役か何かに……でないよ、下劣な地面めがそつと姫の召し物にキッスをして、さういふ特寵を得たので威張り出して、夏芽を出す筈の草花の根に培ふとなんかを下品がつて、しよつちう花畑を冬の荒地のやうにしつちまふかも知れんから。

プロチ おい、ウランタイムン君、そりや法螺にしても、あんまりぢやアないか？

フラン プローチヤス、ゆるしてくれたまへ。どう美めて見たつても、まだ言ひ足らんのだ。姫の立派さに比べると、外のあらゆる物は、到底立派と稱するに足らんのだからね。姫は一人ぼっちだ。(匹儔なした)。

プロチ ぢや、うッちやつとくさ。(ねぶ一丁のけものにしとくさ)。

フラン とんでもないこつた。だつて君、僕のものだもの。あの寶石をわが物としてるのは、大海を二十有つてるやうなもんだよ、其海の真砂が悉く真珠であり、其水が靈漿であり、其岩が純金である所のだ。ゆるしてくれたまへ、自分の戀人の事に夢中になつてゐて、君の事に熱衷してゐないのを。僕には競争者がある、其馬鹿者を姫の親父は好いてる、大きな財産を有つてるといふだけの理由で。つい今、姫と一しよにあつちへ往つたのがそれだ。僕はおッかけてゆかなきゃならん、知つての通り、戀は邪推ぶかいからね。

プロチ だが、姫は君を愛してるかい？

フラン あゝ、もう約束すみだ。いや、それ以上だ、結婚の時間も、駈落の魂膽も、もう決定してあるんだ。どうして姫の居間の窓へ繩で梯子を拵へて登るかといふことまで。二人の幸福のための計畫や約束はもうすッかり出来ッちまつてるんだ。プローチヤス君、僕の部屋へ一しよに来て、なほ此事に就いて、君の智慧を貸してくれたまへ。

プロチ 先きへいつてくれたまへ、たづねて後から行くから。僕は港へいつて、必要な品だけを船から取つて來なくちゃならない。それが濟むと、すぐ君のところへ行くよ。

フラン 急いで、いつて來てくれたまへ。

プロチ よろしい……

フランダインス入る。

(思入あつて)一つの熱が他の熱を逐ひ出すやうに、又一つの釘が他の釘を叩き出すやうに、おれの以前の戀の記憶は、新しい戀のために、すっかり忘れられてしまつた。こんな無法な考へが起るのは、おれが浮氣者だからか、グランタインが讚めたからか、實際あの女が完全なのか、おれの根性が不實で不埒なのか？ 彼女は美しい。あのジョーリヤも美しい……と、つい今まではさう思つて愛してゐたのだつたが、もう其愛は、火に當てた蠟人形のやうに溶けて、形なしになつた。グランタインへの友情も冷めたやうだ、愛するといつても以前のやうぢやアない。お、おれは彼れの愛人が可愛いくツてく、どうもならん。それが彼れを殆ど愛さなくなつた所以だ。更によく見たら、どんなに惑溺するか分らん、こんなに見さかひなしに焦れはじめたおれだ！ 見たのはまだ畫像ぐらゐのものだ、それなのに理性の目が眩んだ。御本體を見りや、盲にもなりかねない理窟だ。此横戀

慕は止められるなら止めたい、が、止められなけりや、どうにかしてあの女を手に入りたい。
 入る。

第五場 同處 街上

スピードとランスが左右から出て来て逢ふ。

スピー ランス！ 誓文！ よくやつて来たねえ此バデュアへ。

バデュアはミランであるべきだが、わざと原文のまゝ。作者の粗忽であらう。

ランス 誓文はよしな、些もよくやつて来たんぢやアない。おれ始終さう思つてる



んだ、人間にんげんて者は、絞罪しほりづぐびになつちまはらんうちは、駄目かめになつたのぢやアなし、切り附きりつけけ(未拂みはらひひ)を支拂しはらツちまつて、女主おかみに「ようこそ」といはれんうちは、よう来たきとはいはれないもんだと。

「切り附きりつけけ」とは酒場さかばなどで其都度そのつどの勘定かんぢやうを柱はしらへ刻きざみ附つけけることをいふ。すなはち書き附つけ代がはりである。其切り附きりつけけの數かずを算かぞへて、後に支拂しはらふのが常顧客じやうとくがいの例れいであつた。

スピー おい、茶目公ちやめこう、今いまに一いしよに酒場さかばへゆかうよ。五片べんすのを一つ切附きりつけりやア五千たびも「よういらッしやい」を言いはれらアな。だが、おまひの旦那だんなは、どうしてまア、あのジューリヤさんを思おもひ切きつて、やつて來きなすつたとだか?

ランス ぶツつかつた當座たうざは真劍しんけんだつたが、しまひにや仲なかよく笑談じやうわんをいつて別わかれなすつたよ。

スピー で、あの嬢ぢやうさんがお嫁よめさんになるのか?

ランス いんにや。

スピー ぢや、どうなんだ? 旦那だんながお聲こゑさんになるのか?

ランス いんにや。

スピー え、仲なかがわれたのか?

ランス いんにや、魚さかなのやうに一つだ。(同心一體だ。一有機體だ。)

スピー ぢや、どういふ具合ぐあひなんだ?

ランス かうなんだ。旦那だんなのはうがい、具合ぐあひな時は、お嬢ぢやうさんのはうもい、具合ぐあひなのだ。

スピー 何なにいつてやがるんだ、馬鹿ばかが! おれア理解りかいしない。

ランス こんな事ことを理解りかいしないやうぢやア唐變木たうへんぼくだ! おれの此この、杖つゑの棒ぼうだつて突つッ解かいしてらア。

スピー 何だど?

ランス ほんのこつた。そらね、斯うおれが倚りかゝるとだ、此杖が、そら、ちやんと突ッかひしてらアな。

スピー なるほど、突ッかひ棒になつてる。

ランス つツかひ棒と理ッ解坊とちや、似た物だ。



スピー だが、おい、縁談はどうなつたのだ?

ランス おれの犬に聞きな。やつが諾といや調ふし、否といつても調ふし、尻尾を振つて、ワンとも何ともいはなくツても調ふ。

スピー ちや、つまり、調ふんだな。

ランス かういふ内密事は、比喩で聞かなくちや聞かかされないや。

スピー さうして、いゝから、聞きたい。だが、ランス、おまひどう思ふ、おれの旦那が札附の色男になつたのを?

ランス おれア以前から然う聞いてゐたんだ。

スピー どう?

ランス 君の今いつた通り、札附の武骨者(Wulken)だと。

スピー 此大馬鹿三太郎が、おれ(の意味)を取違へやがつた。

ランス 頓痴氣、君の事をいやしない、君の旦那のこつたよ。

スピー いゝやさ、おれの旦那が大熱々の色師になつたといふ事よ。

ランス おい、君、おらア一切かまはないよ、君ンとこの旦那が、色で黒ッ焦げになつたつても。ねえ、来る氣なら、酒店まで一しよに來な。來なきや君はヒブ

ルーだ、猶人だ、キリスト信者とはいはれねえや。

スピー なぜ？

ランス キリスト信者と一しよに、祭へ往かうてだけの慈善心をさへも持つてゐねえんだもの。

スピー (戯れて) へい、参ります。

入る。

第六場 同處 公爵邸

ブローチヤス 物思ひに沈んで、自問自答しつゝ出る。

ブローチ ジューリヤを捨てりや誓ひを破ることになる。シルギヤを愛すりや誓ひを

を破ることになる。親友を害辱すりや、いよく誓ひを破ることになる。

而も此三重の破誓を俺にさせようとしてゐるのは、初めておれに誓言をさせた其神さまなのだ。といふのは、おれに誓言をさせたのは「戀」だが、そ

の「戀」がおれに破誓をさせるんだから。お、愉快な誘惑をする「戀」よ、若

しおまひに斯ういふ犯罪の経験があるなら、誘惑の主題とされた此俺に辯

解のしかたを教へてくれ！ おれが最初拜んでゐたのはちらく光る星

だつた、今拜してゐるのは太陽だ。うつかり誓つたとは、しつかりすりや

破りたくなるものだ。過ちを改めさすべく智慧を導かうといふ決然た

る勇氣の無い者は、智慧の無い人物だ。え、馬鹿な！ 何て不都合な舌

だ！ 彼女を悪女だなんて言ふのは。此上もない女だと二萬遍も誓言して

讚めてた癖に！ 愛することを止めるわけにはいかん……けれども止め

る。あつちを止めて、こつちを愛することにする。と、ジューリヤもなくな

りや、ブランタインもなくなる。が、あれらを有つてりや自分を失しッちまはんけりやならん。あれらをなくすりや、そのおかげで、ブランタインの代りに自分を、ジュリーリヤの代りにシルギヤが得られる。おれに取つちやア友だちよりも自分が大事だ、己れを一等貴いものとするのが愛の本質だから。それに、シルギヤに比べりやア……彼女を美人たらしめた天よ、證人にお成り下さい！……ジュリーリヤは黒人のエシオーブに過ぎない。ジュリーリヤの生きてるとは忘れよう、おれに對するおれの愛が死んだ以上さうしてブランタインは敵だと思はう、シルギヤだけを可愛い親友だと定めて。自分へ忠實を盡さうとすりや、ブランタインへ裏切をしないわけにやいかない。今夜彼れは繩梯子で以てあのシルギヤ姫の居間の窓口へ登らうと企てゝゐる、おれが其一味であり、共謀者であるんだ。そこで早速公爵へ俺が二人が假裝して駆落しようとしてゐることを告げる、さうす

りや、悉く腹を立て、ブランタインを追放するだらう、公爵はツリーリオーに姫を嫁はせようとしてゐるのだから。だが、ブランタインさへあなくなりや、あの抜け作めの緩臭い行動なんかは、俺の巧い計略で、すぐに邪魔してしまつてくれる。あゝ、戀よ、此名案を立てる智慧を貸してくれたやうに、此目論見を早く實行する翼を貸してくれ！

入る。

第七場 ゴローナ ジュリーリヤの家

ジュリーリヤとルーセッタが出る。

ジュリー
ルーセッタや、をしへとくれな。ねえ、助けとくれよ。ほんとに後生だからよ、おまひはわたしの石盤よ、わたしがどう思つたらいゝのか、どうした

らいゝのかてイことは、みんなそこに判然と書いたり彫附けたりしてあるのだから。……ねえ、どうしたら、旅へ出て、戀しいブローチヤスさまに逢はれるかを、不名譽にならないで。

ルーセ

あゝ、あなた、旅は辛いものですよ、路が遠くて長くて！

ジュー

信心の深い巡禮は、かよわい足で、幾つもの王國を通るのをさへ辛いとは思はないのよ。それだもの、戀の翼があつて飛んでゆく者は尙更よ。まして、戀しい〜ブローチヤスさまといふ活神さまのそこへ飛んでゆくのだもの。

ルーセ

お待ちになつたはうがいゝでせう、ブローチヤスさまがお歸りになるまで。

ジュリ

まア、おまひ知らないの？ あの方のお顔はわたしの魂ひの滋養なの。もう〜長い間滋養を得ないで、飢饉時の苦みをしてゐたのを憫れんでおくれな。おまひに戀の經驗が少しでもあつたら、言葉で戀の火を消さうとする

ルーセ

るくらゐなら、雪で以て火を起さうとおしだらうに。

いゝえ、なに、わたくしは、其お強い戀の火を消さうとするのぢやございませんの、たゞあんまり滅法界に燃え上らないやうにと手加減をしてゐるの
でございませぬ。

ジュリ

いゝえ、おまひが壓へ附けると、なほと燃え上ります。しづかにつぶやいて流れてゐる小河も、無理に瀬切ると、痾を起したやうに、あばれ出すでせう。けれども素直に流れさせておけば、碧玉のやうな石に觸れて、可愛らしい音楽を奏します、巡禮をしてゆく間に出逢ふ菅や芦を優アしくキツスして、さうして紆餘曲折つて、あつちこつちの隅々でふざけて、荒海へと彷徨つてゆきます。だから、わたしをも留めないで往かせとくれ。おとなしい小河のやうに、わたし凝と辛抱して、辛い、遠い、疲れる道中を慰みのやうに思つて行きます。さうして戀しいお方のそこへ著きさへすれば、も

ルーセ う安心です、幸福な靈魂が、いろんな難儀の末に、極樂園に著いたやうに。
ですが、どんな風をしていらつしやるお積り？

ジュリ さア、女らしくなく。といふのは、みだらな、無頼な男たちに目を附けられないために。ルーセツタや、どこかの評判のわるくない小奴に似合ひさうな著物を、才覺して來とくれな。

ルーセ ちや、あなた、斬髪におなりなさいませんけりやなりませんよ。

ジュリ いゝえ。絹の紐でひつつめて縛つて、幾つもくゝをかアしな戀の結び玉を拵へるのよ。自分の齡よりも上の青年と見せるには、どこか變に氣取つた風が要るわ。

ルーセ お嬢さま、お細袴はどんな仕立にませう？

ジュリ (笑つて) そりやまるで「お殿さま、あなた様の女袴は、周囲の張をいかほどに致しませうか？」といふやうなものねえ。……どんなでも、おまひの好き

なやうな仕立でいゝのよ。

ルーセ では、股塞もお附けにならんけりやなりますまい。

ジュリ 馬鹿おいひでない！ 見ツともないわよ。

ルーセ 太男袴は、今ちや、針一本の値打もありませんのよ(まるで流行りませんのよ)、針入れの股塞をお附けになりませんけりや。

ジュリ お前に任せるからね、わたしに一等體裁よく似合ひさうなのを求めておくれ。だがねえ、世間は何といふだらう、わたしがさういふ思ひ切つた、氣ちがひめいたことをしたら？ さんぐゝわるくいられるだらうねえ。

ルーセ さうおぼしめすなら、お出かけにならないで、お内にいらつしやいましたな。

ジュリ いゝえ、内にやゐません。

ルーセ ちや、悪評なんかをお氣に遊ばさないで、いらつしやいまし。ブローチヤスさまがあなたのいらしたのをお喜びになりさへすれば、お立ちの後

で、だれがどんなに怒らうと、おかまひなさいますな。けれども、わたくしは、あの方があんまりお喜びぢやアあるまいと心配しますわ。

ジュリ

ルーセッタや、わたしそんなことは些とも心配しないの。きつとく喜んで下さるわ、千たびも誓言して、あんなに涙をお流しだつたものを、あゝいふ限りのない愛情の證據があるもの。

ルーセ

さういふやうなことは、みんな、口前のうまい男たちのお手の物ですの。

ジュリ

さういふことを卑劣な目的にする者は卑劣な男よ。けれどもブローチヤスさんの生誕は正しい星が、司つたのです。あの方のおつしやることは證文です、あの方の誓言は神託です。あの方の戀は眞實です、あの方の思想は純潔です。あの方の涙は心臓から來る純正なお使者です。あの方の心は、天が地から隔たつてゐるほどに虚偽から隔たつてゐます。

ルーセ

どうぞ其通りでございますやうに、あの方にお會ひ遊ばす時分に！

ジュリ

ねえ、わたしを思つておくれなら、あの方を疑つたり何かして、あの方を侮辱しないでね。只ね、あの方を大事に思つておくれ、さうすればわたしおまひを大事にするから。ちや、すぐに一しよに居間へいつて、入用な物を調べて、此、わたしの憧れの旅立の支度をしとくれ。わたしの物はみんなおまひの好いやうにおし、品物でも、地所でも、わたしの名譽でも。その代り、わたしを急いで立たせとくれ。さ、返辭するにや及ばないから、さ、すぐによ！ もう些ともぐブツかしちやゐられない。

入る。

* * * * *

第三幕

第一場 ミラン 公爵邸の溜りの間

公爵こうしやく、ツリーオー井びにプローチヤス出る。

公爵 士爵しやくツリーオー、暫しばらくく席せきを避さけて下ください。わたしたちに、少々せうく内密ないしよの話はなしがあるから。……

ツリーオー入はいる。

さ、プローチヤス、わしに内談ないだんといふのは？

プロチ 公爵閣下こうしやくかくか、手前てまへが只今ただいま打明うちあけて申まをし上げようと存ぞんじます事をことば、朋友ほうゆうの情じやう



誼ぎは隠かくせと命めいじます。しかし不束ふつつかな私わたくしを御恩遇おんぐう下くだされましたことを考かんがへますると、義務ぎむとして申まをし上げずにはをられません、他の如何いかなる利福りふくを以もつしてもさういふ心こころにはなれませんのです。閣下かくか、手前てまへの親友しんゆうの士爵しやくブランディングが、今晚こんばん、姫君ひめぎみを盗ぬすみ出ださうとしてをります。わたくしも其共謀者そのきようほうしやにされてをります。閣下かくかは豫かねてツリーオーどのへお姫ひめさんを

……お姫ひめさんはそれを厭いやがつておいでですが……お遣つかはしにならうといふ御決心けつしんと承知しょうちしてをります。ですから、萬一ばんいつ、お姫ひめさんをお盗ぬすまれになりますやうですと、さぞ御老體ごらうたいの御困惑ごこんわくと存ぞんじまして、忠義ちうぎのため、寧ろ親友しんゆうに背そむいて、其計畫そのけいかくを未然みぜんに防ふせがうと決心けつしんしま

したのです、これが多大の御悲歎の原となつて、御衰弱の爲に、御不慮を醸すやうなことがあつてはと存じまして。

公爵

ブローチヤス、君の忠誠な心づかひを感謝します。その眞情にお報いをしたい、何なりとも命じて下さい、わしが生きてる間に。二人が相愛してゐることは、わしも折々認めてゐたのだ、彼等がわしは熟睡してゐると思つてゐた時分に。で、士爵ブランタインを邸へ出入させて姫に交はらせることを禁じようかと思つた。が、若しそれがわしの邪推であつた場合には、故なく他を辱めることになる、さういふ輕擧はわしの常に避けて來たことであるので、寛大な目で見て、君が今知らせてくれた結果を徐ろに發見しようとしてゐたのだ。如何にわしが……若し者はすぐ誘惑されるものだから……それを恐れてゐたかといふ證據には、わしは毎晩姫を館の頂上の塔に寝かして、其鍵は自分で持つてゐる。で、あそこから盜

み出すことは出來ん。

プロチ

いや、閣下、彼等は工夫を凝らしまして、ブランタインが姫のお寝間の窓口へ繩梯子で攀ち登つて、姫を下へお下しする手筈になつてをります。その準備のために、彼れは出掛けていつてをります。もうぢきにこゝへやつて参りますから、それを、御意次第で、おとゞめになることが出來ます。ですが、閣下、お上手におやり遊ばせ、手前が申し上げたといふことを勸附きませんやうに。と申すのは、此企をお告げしましたのは、親友が憎いからではなく、一へにお爲を思ひましたからですから。

公爵

大丈夫、誓つて君から聞いたと知らしやせんよ。

プロチ

は、入る。

ブランタイン、外套の下に繩梯子を隠して、出る。

公爵 士爵ヴランタイン、急いでどこへ往くののだ？

ヴラン は、失禮ながら、ある使ひの者が、手前から友人へ遣はしまする書状を受取らうとして待つてをりますので、それを渡しに参ります。

公爵 重要な書類かね？

ヴラン いえ、只その、お館にをりまして、健康で幸福だと知らせて遣りますだけでございます。

公爵 ちや、どうでもいゝことなのだ。しばらくここにゐて下さい。わしに關係した事で、他人に聞かせてはならん或重要な事を君に打明けて話したいから。豫て知つてをられることゝ思ふが、わしは女を士爵ツリーオーに嫁せたいと思つてゐる。

ヴラン よく存じてをります。さうして至極けつこうなお立派な御縁組と存じます。それに、あの御仁は善良で、大氣で、器量、才徳すべてに於て、お美しい

お姫さんの御配偶たるにお似合ひの方です。よもやお姫さんがあの方をお嫌ひになりはしますまい。

公爵 ところが、嫌ふのだ。わがまゝで、氣むづかしくて、薄情で、固意地で、高慢な、不孝者め、いふことを聴きをらん。自分をわしの子とも思はなければ、わしを父と思つて怖がりもしない、さうまで高慢なために、わしはつくづくと考へた結果、愛情がなくなつてしまつた。此間までは、老後の餘生を彼女の孝行で介抱して貰はうと思つてゐたのであつたが、今は氣が變り、むしろ後妻を迎へて、彼女は、だれにでもかまはん、他人へくれてやつてしまはうと決心した。但し嫁資は彼女の美貌だけだ。わしやわしの財産は、彼女が重んじてはゐないのだから。

ヴラン で、閣下は、手前にどういふ御用を勤めろとお命じになるのです？
公爵 此エローナにわしが好もしく思ふ或婦人がゐるが、几帳面で、猫ツかぶり

で、老人が如何口説いて見ても、相手にしない。そこで、君に教へて貰ひたいのだ……わしはもう求婚といふことを疾うの昔に忘れてしまった。それに時代の風習も變つてゐる……どんな風にもてなしたら、その美人が色よい返辭をするであらうか？

フラン

さア、お言葉に重きを置きませんやうなら、物をお遣はしになりませ。黙つて寂としてゐる寶石のはうが、ともすると、活きてゐる人間の言葉よりも女の心を動かします。

公爵

だがなう、其女はわしが遣つた物を輕蔑したよ。

フラン

どうかすると、女は、非常に氣に入つてゐる物をも輕蔑することがあります。別の品をお遣はしになつて御覽なさいまし。決して捨てちゃいけません。初めの輕蔑が後の愛を一倍にしますから。眉を八字にするのは、あなたが厭だからではなく、もつと可愛がつて戴きたいからです。怒つて

怒鳴るのは、去ツちまつて下さいと申すのぢやありません。と申すのは、一人ツきりになりや、彼れらは氣ちがひのやうになるのが定例です。何といつたつて、引退つちやいけません。「お歸りなさい」は「去ツちまへ！」の意味ぢやないのです。其美いとこの有リッたけを讚めてく、讚めちぎつておやりなさいまし。迎も醜婦であつても、天人のやうだとおつしやいまし。舌がありながら其舌で女を手に入れ得ない男は、男ぢやないとわたくしは申します。

公爵

だが、その女は其友だちの周旋で、ある立派な若い男と許嫁になつてゐて、嚴重に守られてゐるから、晝は迎も接近することが出来ない。

フラン

ぢや、夜中にお近附きになる工夫をしませう。

公爵

だが、戸口には錠がおろしてあつて、鍵はしまひ込んであるから、夜も他人は近附けない。

ブラン 窓口から入りや何の事もありません。

公爵 女の居間は地上からずつと離れた、命がけでなけりや登ることの出来んやうな高いところに、棚のやうな鹽梅に建て出されてある。

ブラン ぢや、繩で上手に拵へた梯子に一對の鈎の附いたのがあります、それを投げかけりや、第二のヒーローの塔へ登ることが出来ます、今のリヤンダーに冒險の勇氣さへありやア。

公爵 ところで、君を紳士と信じて頼むのだが、さういふ梯子は、どこへ往つたら手に入るだらう？

ブラン いつお使ひになるのです？ 先づそれをお知らせ下さいまし。

公爵 今夜要るのだ。といふのは、戀は子供だ、何でも手に入る物はすぐ欲しい。

ブラン 七時になれば、さういふ梯子を持参しませう。

公爵 だがなう、わしは一人で其女のそこへ往くのだ。どうしたらそこまでその

梯子が持つてゆかれるだらう？

ブラン 輕ウございますから、どんな外套の下へでも隠されます。

公爵 君のその外套ぐらゐで役に立つかい？

ブラン はい、立ちますとも。

公爵 ぢや、君の外套を一寸見せてくれ。わしは其長の一枚手に入れよう。

とブランタインの外套へ手を掛ける。身を退つて

ブラン なアに、どんなのでもお役に立ちますよ。

公爵 え、どんな風に被りやいゝのだ？ ちよつとそれをわしに著せて見てくれ。

(と無理に取つて著せさせる拍子にカクシを探つて) おや、此手紙は？ 何だと？ 「シルギヤさまへ！」(ブランタインがうるたへるのを尻目にかけて) これこそおれの仕事に最も役に立つ道具だ。失禮だが、早速開封しよう。

(讀む)

「わが思ひは、夜毎に、わが愛しきシルギヤと共に眠る。而も彼等はわが奴なり、われは彼等をして走り赴かしむ。お、其主たる吾がさしも容易く往來し得なば、彼等が意識なくて横はれる處に、嬉しくも宿るべきに。先觸れ役のわが思ひ（艶喜）は卿の清き胸に休めるに、彼等を急がし立て、送りやりし大君われは然か彼等を優遇したまへる優美なる卿を怨み呪ふ。われはわが奴の幸運を缺けばなり、われはわが身を呪ふ、彼等を送りしはわれなればなり、主のあるべき處に彼等をあらせしはわれなればなり。」

おや、これは？

「シルギヤよ、こよひこそ卿を自由ならしむべけれ。」

これだ。これが其爲の梯子なのだ。……（ワランタインを睨め附けてやい、フイートン……メロツプスの倅下賤者だ、争はれないものだ……汝は僭越にも、向う見すにも、天の御車の御者になつて、馬鹿な真似をして、世界ぢうを焼いてしまはうとするのか？ 上で光つてるから往かれると思ふのか、星のところへ？ ぶうくしい下司奴めが！ 己惚れ切つたやつめ！ 其ごますり顔は同輩の女



どもに見せろ。こゝを無事に立去らせるのは、おれの忍耐のおかげだ、汝に取りどころがあるんぢやない。今日までに過分に與へた恩恵以上にそれを有りがたく思つて早く往け。最も短い時間内に館を立去れ。それ以上領内にぐづついてゐると、今日まで汝や姫を愛してゐた幾層倍に、怒りもし憎みもして、嚴罰を下すぞ！ 去ッちまへ！ 辯解は無用だ。命が惜しけりや早く往け！

と言ひすてゝ入る。

フラン

(しばらくは惘然としてゐたが)生きて苦しむよりは、死んだほうがましだ！ 死ぬのは自分から追放されるんだ。シルギヤはおれ自身だ。彼女から追放されるのは自分から自分が追放されるんだ。死ぬも同然の追放だ。どこに光りらしい光りがある、シルギヤが見られなくなつた日には？ どこに嬉しい事があらう、シルギヤが傍にゐなくツて？ たかゞ、傍にゐるのだ

と想像して、「完全」の影を楽しむのが關の山だ。夜も、シルギヤが傍にゐなけりや、妙音鳥が啼いたつて、佳い音には聞えやしない。晝も、シルギヤの顔を見なけりや、日の目を見ないも同然だ。あれはおれの性命だ。あれの美の力で養はれ、照らされ、なつかしまれ、生かされない以上、おれは生きちゃをられない。公爵の宣告を避けたからつて、死を避けるわけにやいかない。こゝにぐづついてゐるのは、まだしも死を待つてるのだが、こゝを離れるのは、命から離れるのだ。

夜がふけて四方がだんく眞暗になる。プローチヤスがラン スを連れて急ぎ足で出る。

プロチ

(まだフランタインのゐるのを見附け得ないで、ランスに)小僧、駈けろく、さうして彼の男をさがし出せ。

ランス

(あちこち駈け廻つてとゞフランタインを透して見て)ソーホー！ ソーホー！

これは兎獺又は鷹狩に於て、何か獲物を見附けた時の合圖の呼び聲である。

プロチ おい、何か見えるか？

ランス へい、捜してたお方が。ヴランタイン(眞の情人)さんらしくない兎(頭髪は

只の一疋、いや、一筋だつてゐませんや。(正真正銘のヴランタインさんがあそこにお見えになります。)

プロチ (すつと進んで、透して見て)ヴランタインかい？

ヴラン いゝえ。

プロチ ちや、だれだ？ 幽霊？

ヴラン でもない。

プロチ ちや、だれだ？

ヴラン 何でもないもんだ。

ランス 何でもないもんが物をいふ筈アないや。旦那、ぶんなぐりませうか？

プロチ だれを？

ランス 何でもないものを。

プロチ よせ、馬鹿ッ！

ランス だつて、何でもないもんをなぐるんでも何でもないんで。ですから……

プロチ こら、よせといふに。……ヴランタイン君、ちよいと。

ヴラン 僕の耳は詰ッちまつてるから、いゝ知らせなんか逆も聞えやしないう、それほどわるい事に占領されッちまつてるんだ。

プロチ ちや、僕の知らせはだんまりで葬ッちまはう、いけない、聞きづらい、厭アな事なんだから。

ヴラン シルギヤさんが死んだのか？

プロチ とんでもない、ヴランタイン！

ヴラン え、飛んで最早ない？ なるほど、もうヴランタイム（眞情の人）はない。……
姫が心變りをしたのかい？

プロチ とんでもない、ヴランタイム！

ヴラン え、最早無い？ なるほど、姫が心變りをすりや、もうヴランタイムはゐないも同然だ。……おい、何か珍聞でもあるのかい？

ランス （横合から）あなたがお消え（お刑）になつたッてお布告が出ました。

原文は banish を unish と誤解してゐる。追放されて居なくなるといふ事と消えて居なくなるといふ事との類似に一種のをかしみが伴つてゐる。「刑」と「消え」との語呂ほどの駄洒落である。

プロチ 君が刑に處せられたといふ觸れが出たよ……お、實に珍聞だ！（思ひがけない事だ！）……ここから追放されたといふ觸れが、シルギヤさんからも、親

友の僕からも引離されて。

ヴラン お、その苦痛は、もうとうに味はつてゐる。此上盛られりや食傷しツちまふ。シルギヤさんは知つてたかい、僕の追放されたことを？

プロチ 知つてゐなさるとも。その宣告を公爵に取消して貰はうとて……それに
も拘らず、勵行されることになつたがね……姫は溶けた眞珠を、俗には涙ともいふものを、海のやうにお父さんの熊のやうな脚下に流して、膝を突いて、平伏して、手を揮絞つて歎願なすつたのだ、其手の白さが如何にも悲しみの爲に蒼白になつたかのやうでよく似合つた。けれども曲げた膝も、捧げた清い手も、悲しげな溜息も、深い呻き聲も、銀を流す涙も無慈悲な父公爵の耳には入らないのだ。だから、ヴランタイムは、捉まりや命はない。それに、生中君を救はうとして姫が歎願なすつたのを公爵が怒つて、おのれ、いつまでも禁錮めておくぞと怒鳴り立て、姫をば嚴重な牢の中へ押

込めてしまはれた。

ヴラン

(煩悶して)もうよしてくれ。かまはずしやべらせとくと、君は今に僕の命を断切るやうなことを言ひ出しさうだ。そんな怖ろしいことをいふのなら、そつと耳の傍で囁いてくれ、此無限の悲みの引導代りに、讚美歌のやうに。

プロチ

到底しやうのないことを歎くのをやめて、その歎きの後始末を何とかしようと考えたはうがい。『時』はいろんな好い事を保育する者だ。こゝにぐづくしてゐたとして、戀人には會へない、のみならず、命があぶない。ねえ、希望は戀をする者の杖だ。希望にすがつて、こゝを立退いて、自暴自棄な考へをそれで防ぎたまへ。體はこゝにゐなくても、手紙はよこされる。僕へ宛て、よこしや、君の戀人の乳白の胸へとつけてやるよ。今は論判してゐる時ぢやない。さ、市門外までは僕が送つてゆかう、さうして別れる前に僕の戀愛に關した事も一切話さう。シルギヤさんが可愛いなら、自分

ヴラン

の爲は思はないまでも、危険を避けるのが當然だよ。さ、一しよに！
おい、ランス、若しおれの奴めがゐたら、急いで後から來い、ノオスゲートに待つてるといつてくんな。

プロチ

(ランスに)早くいつて搜して來い。……さ、ヴランタイム。
と先きに立つ。

ヴラン

おゝ、いとほしいシルギヤさん！ あゝ、不仕合せなヴランタイム！
二人入る。

ランスだけ残る。

ランス

(観客に向つて)ねえ、諸君、僕は一個の抜け作たるに過ぎないけれども、ねえ、それでも解つてら、内の旦那が一種の悪黨だてイことは。けれどもねえ、それがそのたゞ一個の悪黨であるのなら、敢て大したこともないがね。……世間には俺が戀をしてるてイことを知つてゐる者はあるまいけれども、實

は、してるんだ。二頭立の馬力だつて、俺をそこから引ッ張り出すことは出来ないだらうて。いや、相手がだれかていこともだ。が、そりやア女だよ。どんな女かてことは話すまい。けれども搾乳娘だ。だが處女ぢやアないや、教母さんの世話になつたことがあつたからね。(私生児を産んだことがあつたから)。でも婢なんだ、奉公して給金を貰つてるからね。捕鴨 狎よりや、すツと長所が多いや…とすりやア、素のキリスト信者としては、えらいこつた。(書いた物をカクシから出して)こゝに彼女の性質調書てものがあらア。「第一、持ち運びいたし候」。馬だつて、それ以上は出来ないや。いんにや、馬は運ぶことア出来ても、持つことア出来ない。だから馬よりやました。「一つ、乳を搾り候」。ねえ、君、手の清淨いな娘にや好い長所だらう。

スピード 出る。

スピー おい、ランズ先生！ 君んとこの旦那閣下はどうしてるね？

ランズ おれんとこの旦那の乗船なら、海にあらア。

スピー わるい癖だ、また地口るのか！ その書附けは何だ？ 何か珍聞か？

ランズ 聞いたこともないやうな真黒けな(凄じ)事件だ。

スピー え、どう黒いッ。

ランズ インキのやうに黒い。

スピー 讀ませてくれ。

ランズ 馬鹿いつてら！ 讀めもしない癖に。

スピー うそつけ！ 讀めら。

ランズ ちや、試験してやる。おい、だれがおまひを生んだ？

スピー おれのお祖父さんの息子がよ。

ランズ おゝ、此無智文旨の漂泊漢めが！ お祖母さんの息子だアな。それで以て

讀めねえのが解らア。

スピー おいしく、馬鹿ッ、おい！ その書附けで試験しなよ。

ランス さ、(と書附けを渡して)ニコラス聖者さま、汝をお守り下さいました！

スピー (讀む)「第一、乳を搾り候」。

ランス うん、それが長所だ。

スピー (讀む)「一つ、よき麥酒を醸り候」。

ランス それからあの諺が出来たんだ「おまへの心に仕合せ多かれ、味よい麥酒を醸つたおまへ」て諺は。

スピー (又讀む)「一つ、裁縫もいたし候」。

ランス といふのは、たかゞ、「左ッ様にいたしますか？」ぐらゐのところだね。

スピー 「一つ、編み物もいたし候」。

ランス 靴下を編んでくれるあまッ子なら上等だ、何も糸圖々々と言ふにや及ばん。

スピー 「一つ、洗濯もいたし候」。

ランス 特別長所だ。それだと、洗濯してやらなくてもいゝから。

スピー 「一つ、絲紡ぎもいたし候」。

ランス ちや、只乗ッかつてるばかりで暮してゆかれら、彼女が絲車で廻してくれ
るから。

スピー 「一つ、其他、名の無き長所いろゝござ候」。

ランス そりや私生兒長所といふも同然だ。實父が解らんから名が無いんだ。

スピー これからが缺點の行列だ。

フオリオの原文には此語をも書附け中の一語として印刷してある。で、通例は無理ながら、然う解釋するのだが、これは明かに印刷ちがひで、スピードの挿語とすべきである。

ランス 餘計なものがお伴をして來てるなア。

原文の意を少しく變へて譯しておく。國文としては斯う

譯するより外にしかたがない。もとより、愛惜するほどの原文でない。

スピー 「二つ、物食はぬ際にはキツス御無用に候、息臭に候ゆる。」

ランス そりや食はせさへすりや治るからい。それから。

スピー 「二つ、いつも甘い口をいたしをり候。」(始終嘗め物をいたしてをり候)。

ランス 臭い息の埋め合せにならア。

スピー 「二つ、寝てゐて饒舌り候。」

ランス シャベつてるうちに寝さへしなけりやかまはん。

スピー 「二つ、無口に候。」

ランス お、それを缺點に入れる馬鹿があるか！ 無口は女の唯一の美德だ。

君、そんなのは消しッちまつて、主な長所の中へ入れてくれたまへ。

スピー 「二つ、高慢に候。」

ランス それも消してくれ。イーヴ以来の遺傳だ。それが女から取除けられるものか！

スピー 「二つ、齒なしに候。」

ランス かまはないや、硬皮(クラスト)麴麴の皮は俺が好きだから。

スピー 「二つ、悍婦だちに候。」

ランス さア、齒がないから上等だ、咬附きやしなからう。

スピー 「二つ、時々自釀酒を賞味いたし候。」

ランス 美しい酒なら賞味もしようさ。彼女がしなけりや俺がする。いゝ物を賞めるのは當り前だ。

スピー 「二つ、だらしなく候。」

ランス 無口だとしてありや、舌がだらしないのぢやなしと。財布はおれが締め括りをすりやアよしと。其外の事で取締がないのは、そりやしかたがないや。

そこで、後を。

スピー 「一つ、智慧よりも頭髮が多く、頭髮よりも過失が多く、過失よりも財産が多
く候。」

ランス そこで止めたり！ 僕は彼女を嫌にしよう。しようか、しまいかと、二度
も三度も迷つたのは、其一等しまひの箇條なんだ。それをもう一度読んで
くれたまへ。

スピー 「一つ、智慧よりも頭髮が多く……」

ランス 智慧よりも頭髮が多く？ そりや有りさうなこつた。證據立て、見よう

か？（物體ぶつて）鹽を掩つてゐる（鹽器の）蓋は鹽よりも大きい、智慧（腦髓）を掩
つてゐる頭髮は智慧よりも多い、大きいほうが小さいほうが掩ふのが定例
だからね。その次ぎは？

スピー 頭髮よりも過失が多く……」

ランス そりや大變だ。あゝ、そりやいけないや！

スピー 「過失よりも財産が多く候。」

ランス さア、さう聞くと過失も有りがたくなる。よし、彼女を嫌にしよう。で、
約束である以上、何でも出来ないことはないのだから……

スピー え、さうしたら？

ランス さア、さうしたら……をしへてやるのさ……おまひの旦那はノオスゲート
で、とツクからおまひを待つてゐるよ。

スピー え、おれをッ！

ランス おまひをよ！ おまひは一體何者だい？ おまひの旦那は、もつとく
上等な人間を（宮中で）待受ける役目をした人だのに。

スピー ちや、旦那のそこへ往かなきゃならんのか？

ランス 飛んで行かなくッちやア。間に合はない位だ。くづツかしてゐた罰だ

アな。

スピー

なぜ、もつと早く知らせしてくれないのだ？

艶書なんか見せやがつて、

糞ッ！

と大あわてで駈けて入る。

ランス

(それを見送つて) おれの密書を読みやアがつた罰で、撲たれやアがるんだ……失敬な野郎め、おれの内証事へ首ッ玉を突ッ込みやアがつて！ 尾いてつて、やつ懲罰されるのを見てくれよう。

入る。

第二場 同處 公爵邸

公爵とツリーオーと出る。

公爵

士爵ツリーオー、大丈夫、姫は君を愛するよ、ブランタインが目の前になくなつた以上。

ツリー

あの男が御追放になつてからは、姫さんは倍々手前を嫌つて、絶交を誓つて、さんく悪口をなされました、ですからもう到底望みはございません。

公爵

いや、あんな微弱な戀の印象は、氷に彫り附けた人形のやうなものだ、一時間熱に當てれば、溶けて水になつて、跡形もなくなるよ。彼女のあの凍結してゐる思ひも、程なく釋けて、詰らんブランタインの事なんかは、今に忘れてしまふだらうよ……

ブローチヤス出る。

士爵ブローチヤス、どうだつたね？ 君の國の男は、わしの宣告通りに、退

去したかい？

ブローチ

はい、退去いたしました。

公爵 女めは彼れのゐなくなつたのを怖ろしく歎いてゐる。

プロチ そのお歎きは程なくお忘れになりませう。

公爵 わしもさう思ふ。が、ツリーオーどんはさう思はない。プローチヤス、わしは君を信じてゐるから……信用すべき立派な資格のある仁だと認め
てゐるから……そこで特に相談を掛けるのだが……

プロチ 手前が閣下に對して、萬一、忠誠を怠りますやうな事がございましたら、二度と拜顔はいたしません。

公爵 君は、わしが士爵ツリーオーに女を婚せたいと思つてゐることは知つてゝ
あらうな。

プロチ 存じてをります。

公爵 それから又、女が不承知の事も。

プロチ はい、ヴランタインがをりました間は。

公爵 さやう。さうして今でも剛情を張り通してゐる。どうしたら彼女にヴラ
ンタインの事をば忘れさせて、ツリーオーを愛させることが出来るだら
うか？

プロチ 一等いゝ方法は、ヴランタインを偽り者、臆病者、身分の賤しい者と讒謗な
さることです。其三つは婦人たちの最も忌み憎む所です。ご
すから。

公爵 だが、女はそれを、憎む餘りにいふのだとばかり思ふだらう。

プロチ 敵がさう申せばです。……ですから、お姫さんがヴランタインの親友だ
とお信じになる者の口から遠廻しにお聞かせするのでなけりやいけません。

公爵 ちや、君が其役を勤めてくれなけりやいかん。

プロチ そりや、御前、困ります。わたくしは屑しとしません、紳士としては、わる
い役目ですから、殊に親友に對しては。

公爵

いや、あの男の爲に辯護をしたとて何等の利益にもならん場合には、讒謗をしたからッて、決してあの男の害にはならんよ。だから、此役目は善でもなく悪でもなく、親友のわしに懇願されてすることたるに過ぎない。

プロチ

(餘儀なきうに)では、お引受けいたしませう。幸ひにわたくしが彼れをわける言つたのがお役に立てば、お姫さんがいつまでもあの男をお思ひつゞけになるやうなことはございますまい。ですが、それで以てブランタインに對する姫の御未練の根は抜けるとしても、ツリーオー君をお愛しになるとは定りませんよ。

ツリー

だから、君が姫の其未練の絲をほぐすときに、後が縫れて役に立たなくなつちや困るから、僕を持にしてすぐに巻き附けるやうにして下さい。それには、ブランタインをわるくいふのと逆比例に僕をほめて下さらんけりやいかん。

公爵

プローチヤス、わしらは、此件に關しては、敢て君に信任する、といふのは、豫てブランタインから、君は戀愛の堅い信者で、決して變心したり、背叛したりしない男だと聞いてゐるからだ。さういふ保證があるから、自由にシルギヤに近附いて話をして下さい、氣落ちして鬱ぎ切つてゐるところだから、ブランタインの親友だといふので、歡んで君を迎へるだらう。で、君が説得すれば、ブランタインを嫌つて、此わしの親友のツリーオーを愛するやうに鍛ひ直されさうなものだ。

プロチ

出来るだけやつて見ませう。だが、ツリーオー君、あなたは熱心が足りませんよ。ねえ、姫の心を生捕るためには、哀れな歌で鳥籠羅をお掛けなさらないやいけませんよ、至誠献身の誓言づくめといふ韵語を作つて。

公爵

さうだ、……神聖な詩歌の力は大了なものだ。

プロチ

ねえ、姫の美貌の祭壇に、あなたは其涙を、其溜息を、其心臓を献げるとお

綴りなさい、インキが乾いッちまつて、涙で湿さなけりやならんやうになるまでお書きなさい。さういふやうな感情を顯はすに足る或感傷的な句をお案じなさい。例のオルフェースの琵琶は詩人の神經を絃にしてゐたのです。だから、金を鳴らすやうな調べを發して、鋼鐵も石も和ぎ、虎も懐き、鯨鯢も底知らぬ海原を離れて砂原で踊つたのです。さういふ悲しい哀歌を送つておいて、毎晩姫のお居間の窓下へ、粹な樂人連をつれて、出掛けについて、樂器に合せて、哀れな一調べを奏させるのです。寂とした眞夜中はさういふ粹な哀れな調べには持つて來いです。それより外には、お姫さんを手に入れる道はありません。

公爵

その訓へかたで、君が戀の經驗家だといふことが解る。

ツリー

君のその御忠告は、今夜實行します。ですから、指圖役のブローチヤス君、すぐに市へ一しよにいつて、音樂に堪能な人達を選抜して下さい。僕はち

やうど其役に立つ短歌を持合せてゐるから、君の忠告通りに着手する。

公爵

早速やるが、いゝ。

ブローチ

御夕食までは閣下にお仕へしまして、それから此事の實行にかゝりませう。

公爵

いや、今すぐかゝるが、いゝ！ 許す。

みなはひ
皆入る。

* * * * *



第四幕

第一場 ミラン附近の森

若干の山賊(刑餘の浮浪人)出る。

甲 賊 みんな、しっかりしろ。旅人が來

たぞ。

乙 賊 十人ゐたつてもへこたれるな、ぶっちめッちまへ。

グラントインとスピードが出る。

丙 賊 まて、持つてる物を残らず投げ出せ。出さないと、捉まへて、身ぐるみ剥ぐぞ。

スピー 旦那、もう駄目ですよ。こりや旅人たちが悉皆怖がつてる悪黨なんです。

ブラン (しづかに、山賊らに)おい、親友たち……

甲 賊 大ちがひだ。こちとらは汝らの敵だ。

乙 賊 まア、まて！ 言ふことを聽いてやらうよ。

丙 賊 さうだ、聽いてやらうよ、立派な男だから。

ブラン ちや、先づ言ふが、わたしの手にや取られるほどの物はないのだ。わたしは逆境に沈淪してゐる男なのだから、此粗末な衣類以外に何にもない、これを君たちが剥げば、それで以てわたしの全財産を取つたわけになる。君はどこへ行くのだ？

ヴラン エローナへ。

甲 賊 どこから来たんだね？

ヴラン ミランから。

丙 賊 あそこに長く住んでゐたのか？

ヴラン 十六ヶ月ほど。もつとゐる筈であつたが、意地のわるい運命の爲に國遠せざるを得なくなつたのだ。

甲 賊 え？ ちや、追放されたのかね？

ヴラン さうだ？。

乙 賊 どういふ罪で？

ヴラン それを話すのさへも此身の苛責なのだ。人を殺したのだ、今は大變に後悔してゐるんだが。けれどもそれは、立派に立合つて殺したのだ、欺し討ちとか、無手の時にかいふのではない。

甲 賊 さういふ殺し方であつたのなら、後悔するにや及ばんよ。そんな些細な罪で追放にされたのかね？

ヴラン さうだ。わたしはそれで濟んだので喜んでゐる。

乙 賊 君は國語をいろ／＼知つてゐるかい？

ヴラン 若い時に方々を旅行したから、國語は得意だ、でなかつたら、折々みじめな目を見たらう。

丙 賊 ロビン・フッドのタック坊主の頭に懸けて、(誓文！)此奴アこちとら仲間の王さんによさうだぜ！

甲 賊 さうしよう。……おい、みんな、ちよいと。

一隅へ寄りこぞる。

ロビン・フッドは伯爵あがりの山賊の首領、わが草双紙の兒雷也、「神稻水滸傳」の小幡小次郎といふ格の義賊。タック (Tuck)

は其部下の賊僧。

スピー

旦那、あの仲間へお入りなさいまし。盗賊業のうちちや立派なほうでござんすよ。

グラン

黙つてろ！

乙賊

(グランタイムンに)おい、聞くが、君には何か頼りにするものがあるのか？

グラン

運を頼むツきりだ。

丙賊

ちや、いふが、こちとらの仲間の中には、豪放な青年時代の血氣が原因で、小心翼々の連中(恭謹者流)から絶縁した随分立派な手合があるんだ。おれは、エローナの者だが、世嗣娘で、公爵の近親である女を盗み出さうとしたので、追放されたんだ。

乙賊

それから、おれはマンチュアから追放された、一旦の怒りに任せて、ある紳士の心臓をすぶりとやつたので。

甲賊

それから、おれもそれに似た些細な罪で。だが、ま、肝腎な事を……畢竟、こちとらの科を竝べたのは、かういふ違法の生活をするに至つた辯解のためであり、二つには、君は、風采が立派な上に、今聞けば言語學者だといふし、われ々の職業上からいつて、望む所の完全な資格の人だと思ふからして……

乙賊

殊には、君が追放された人でもあるから、言ふんだが、どうだ、こちとらの大將になつてくれないか？ 必要な事は善い事だとして、われ々同様此森で暮す氣はないかね？

丙賊

どうだね？ 仲間にならないかね？ 諾といつて、こちとら一同の頭になつてくれ。みんなが手下になつて、支配を受けて、大將とも王さまとも尊敬するから。

甲賊

が、若し此優遇を輕蔑して、いやだといやア、助けちやおかない。

乙 賊 生かして、おれたちから斯んな頼みを受けたなんぞと、高言を吐かしてやアしないぞ。

ブラン

(思入あつて) 頼みを聴いて、君たちと一しよに暮さう、淺はかな女や貧しい旅人には決して暴行をしないといふ約束をすりや。

丙 賊

勿論だ、さういふ卑劣な悪事はこちとらの賤む所だ。さ、一しよにおいでなさい、仲間の者のあるところへ案内して、持つてゐる財産をも見せるから。それは、こちとらの體と共に、以後はあなたの心任せだ。

入る。

第二場

ミラン

公爵邸の外部

シルギヤ姫の居間の窓下

プローチヤスが沈思しつゝ出る。

晩景。

プロチ

おれは既にブランタインに對して不信を働いたが、今またツリーオーにも不正を行はんけりやならん、彼れの爲にしてゐるらしく見せてゐて、實は、自分の戀を遂げようとするのだから。しかしシルギヤはあの通り正しくツて貞淑なのだから、中々おれの詰らん贈り物なんかぢや墮すことが出来ない。誠心、誠意お仕へする心だといつても、おれの親友に對する不信を持出して、一笑に附してしまふし、其美貌を禮讚すりや、以前愛してゐたジュエリヤに破誓したのを考へて見ろといふ。あの火花のやうな皮肉な嘲弄は其一等手柔かなのも人をして失望せしめるに足るが、それでも、そんなに蹴返されながら、おれの戀は彌々募つて、狎のやうに尙と姫にまつはる。……(一方を見て)だが、ツリーオーがやつて来たから、姫の居間の窓下へいつて、夕方の樂を何か聞かせなけりやならん。

ツリーオーと音楽者ら出る。

ツリー おい、土爵プロローチヤス、君はもう這込んでるのかい？

プロチ はア、おつしやる通りです。戀てやつは、おほッぴらに歩いちゃゆかれない

とこへは、そツと這つていつて、御用を勤めるのが定例ですからね。

ツリー だが、君がこゝで戀をしてるのぢやあるまい。

プロチ い、え、してますよ。でなきや、こゝにゐるものですか？

ツリー え？ だれを？ シルギヤさんを？

プロチ はア、シルギヤさんをです、あなたの爲にね。

ツリー ありがたう、君のために。……さ、諸君、やつて下さい、さうして暫くの間盛んにね。

此時、一方へ旅館の亭主が少年に男装したジュリーヤを連れて出る。ツリーオーラの居るところからは、すつと隔つてゐる心である。わが劇ならば、花道を利用したであらう。

亭主 もし、お若いお客さま、とかく御中樽(御徳樽)でいらつしやいますやうですが、どうなすつたのでございます？

ジュリー さア、御亭主さん、どうしても氣が浮き立ちませんので。

亭主 ぢや、お氣が浮き立つやうにいたしませんか。音楽が聞えて、おまけに、お尋ねのお方にお會ひなさることの出来るところへ御案内しませう。

ジュリー 其人が物を言ふのが聞かれませうか？

亭主 はい、聞かれます。

ジュリー それがわたしの音楽です。

此時樂人らが樂器を奏しはじめる。

亭主 あ、あれをお聴きなさいまし！

ジュリー (樂人らのはうを見やつて)あのうちにゐるでせうか？

亭主 はい。ま、おしづかに！ 暫く聴いてゐませう。

(歌)

シルギヤどのは何處のたれ？

若い衆仲間の評判むすめ。

伶俐で、貞女で、標致美し。

讃められるやう生れた歟、

神さんの恵みで好いところくめ。

美しい如に氣も優しいか？

優しい心には美が住むと言へば。

戀の神(キュービッド)さんが其目を訪ね

此見えぬ目を治いてくれと

頼んで、治つて、そこに住む。

されば讚めやれシルギヤどのを

又と類ないシルギヤどのを。

賤し下界に住む人間は

いかな一人も及びも附かぬ。

花の輪飾りやあの娘子へ。

此歌を聴いてゐるうちに、ジューリヤは堪へかれて、そつと涙を拭ふ。

亭主 (ジューリヤに) どうなすつた！ 先刻よりも鬱いでおいでなさるぢやないか

ね？ え、どうなすつたのです？ あの歌がお氣に入りますんですな。

ジュリ ちがひます。音楽者が氣に入らないのです。

亭主 どういふわけですな？

ジュリ 調べに嘘があります。

亭主 え、どう？ 絃の調子が？

ジュリ いゝえ、さうぢやアないのですが、わたしの心の絃に苦痛を感じさせるやうな奏べ方をするのです。

亭主 あなたのお耳は鋭敏でございませう。

ジュリ さア、いつも聾だつたらと思ひます。聞えるので氣が重くなります。

亭主 音楽はお好きでないらしいね。

ジュリ こんな焦々させるやうなのは嫌ひです。

此時音楽の調子が一變する。

亭主 お聞きなさい、大變いゝ調べに變りましたよ。

ジュリ さア、その變つたのが怨めしいのです。情けないのです。

亭主 では、いつも一つ事はかし調べさせたいとおつしやるのですか？

ジュリ はア、いつも只た一つの同じ物ばかり調べてゐて貰ひたいのです。それは

さうと、あのブローチヤスといふ方は、折々此御婦人のとこへ見えるのですか？

亭主 さア、御家來のランスでイ人の話では……まるツきり無勘定に惚れぬいておいでなさるさうで。

ジュリ ランスといふ人は今どこにゐます？

亭主 犬を捜しにゆきましたよ。そいつをね、旦那の吩咐で、明日、そのお姫さんへ進上するんださうでね。

ジュリ (向うを見てゐて) しッ！ こつちへ寄つてませうよ。あの人たち、もう別れて、歸つてゆくのらしい。

と亭主と共に一隅へ退る。

ブローチ ツーリオーさん、御心配なさるな。うまく説きますよ、わたしのやりか

たの迎も巧妙なのを感心なさるほどに。

ツリー で、どこで會ふのです？

プロチ セント・グレゴリーの井で。

ツリー さよなら。

ツリーオーと 樂人ら入る。

此時シルギヤが 高二重へ出る。

プロチ (見上げて) お姫さん、今晚は。御機嫌よう！

シルギ 皆さん、音樂を有りがたう。…今、物をおつしやつたのはどなた？

プロチ お姫さん、其男の心の純真なのをあなたが知つて下さいましたならば、聲

をお聞きになつたばかりでも、おわかりになりさうなものです。

シルギ プローチヤスさんでせう。

プロチ プローチヤスです、あなたの御家來の。

シルギ で、あなたの御用は？

プロチ あなたの御用が勤めたいのです。

シルギ お望みを叶へませう。わたしの用は斯うです。すぐ急いでお家へ歸つて

お寝みなさい。狡猾な、いゝ加減な誓言をする、不信、不忠な人！ おま

ひはわたしを、追従で誘惑される、そんな淺はかな、思慮のない女だと思

つてゐるのか？ 偽誓言をして何人も人を騙したおまひなんかの追従で！

お歸り、歸つてつて、以前の戀人におわびをなさい。わたしは…此蒼白

い夜の女王(月)を誓ひに掛けて、おまひの言ふことなんかを聴くどころか、

おまひの横戀慕を憎み賤みます。のみならず、これだけおまひに物を言つ

たのをさへ、不當であつたと自分を叱るのです。

プロチ お姫さん、なるほど、其以前一人の婦人を愛したことがあります。けれど

も其女はもう死んだのです。

ジュリ (傍) いゝえ、わたしが口をきゝやア、それは虚言になりませう、其女はまだ葬られてはゐませんから。

シルギ 其婦人は死んだとしませう。けれどもおまひの親友のヴァンタインは生きてゐます。あの人がわたしの許嫁であることは、おまひ自身が證人であるのに、それを裏切つて、わたしに無理非道な思ひを掛けるのを恥だとは思ひませんか？

プロチ いや、ヴァンタインもなくなつたと聞いてゐます。

シルギ ぢや、わたしも死んだとお思ひ。あの人が死ねば、無論、わたしの愛は其墓の中へ埋められてしまひます。

プロチ さうなりや、それをわたくしは掘り起します。

シルギ それよりも、先の戀人の墓へいつて、其人の愛を呼び出すがいゝわ。でなきや、せめて其中へおまひの愛を葬るがいゝ。

ジュリ (傍) あの人は聞えなかつた介をしてゐるわ。

プロチ お姫さん、それほどまで情無くおつしやれば、是非に及びませんが、せめてお情けに、お居間に掛けてあるあなたの御肖像をお貸しなすつて下さい、せめて、あれへなりと物をいつたり、溜息をしたり、泣いたりしたいのです。あなたの完全な御本體が餘所へ奉納されつちまつた以上、わたくしはもう影です。ですから、あなたの影へ眞愛を獻げます。

ジュリ (傍) 若しその像が本體であつたら、あなたはやッぱり欺すでせう、さうしてわたし同様の影にしておしまひなさるでせう。

シルギ (やゝ言葉を和らげて) あんたの偶像なんかになるのは厭だけれど、影を拜んだり、偽の姿を崇めたりするのは、嘔吐きのあんたには似合つてますから、明朝使ひをおよこしなさい、貸しませう。ぢや、お寢み。

プロチ はい、寢みますでせう、翌朝處刑される不幸な罪人のやうに、不安な一夜

を。

シルギヤは高二重の奥へ、ブローチヤスは平舞臺の一方へ入る。
ジュリ 御亭主、歸りませう。

亭主 (居眠つてゐたのを呼び醒されて) やれ〜！ つい居眠つてしまひましたわい。

ジュリ ねえ、ブローチヤスさんは、どこに泊つてゐます？

亭主 手前方で……おや！ もう夜が明けましたやうですぜ。

ジュリ いゝえ、まだです。けれども曾ぞこんな長い夜を寐すにゐたことはありません。それに、迎も苦しい、辛い晩でした。

はひ
入る。

第三場 同處

紳士 エグラムーア 出る。

エグラ シルギヤ姫さんが、どうか訪ねて来て、わしの考へを聞いてくれるとお頼みなすつた時刻だ。何か重大な事におれをお使ひなさるのらしい……
(見上げて) お姫さま〜！

シルギヤが 又高二重へ出る。

シルギ ダアれ、呼ぶのは？

エグラ 御信頼下さるべき御家來です。御命令の下るのを待つてをります者です。

シルギ 士爵エグラムーア、お早うござんす。くれぐれも御機嫌よう！

エグラ お姫さまへも其通りを御返禮申し上げます。お吩咐によりまして、斯く早朝に伺ひました、どういふ事を御下命になりますか、御意を承はらうと存じますして。

シルギ お、エグラムーア、あなたは紳士です……いゝえ、お世辭だと思ひでな

い、決してお世辭はいひません……勇敢で聰明で慈悲ぶかくて、藝能に秀でた紳士ですあなたは。あなたはわたしを追放されたブランタインをどんなに深く思つてゐたかといふことは知つてでせう。又父が無理にわたしを、あのわたしの大嫌ひの愚かなツリーオーに嫁はせようとしてゐること。あなたは戀をした人です。さうして、あなたが斯うおつしやつたのを聞いてもゐます、あなたの戀人の御婦人がお亡くなりの時ほど心の底に悲みを覺えたことはなかつた、だから其お墓で一生不犯の誓言をなすつたといふことを。士爵エグラムア、わたしはブランタインのそこへ往きたい。マンチュアに住んでゐると聞きました。が、其行く途々が危険ですから、あなたの忠實と名譽とに信頼して、連れていつて貰ひたいのです。エグラムア、父の怒りなんかを彼れ此れおつしやるな、わたしが悲しんでゐるのを婦人が悲しんでゐるといふことを思つて下さい。神や運命が

エグラ

疫病を以て罰するやうな不義非道な結婚を避けるために駈落ちするのは正しい事だと思つて下さい。お願いです、濱の眞砂の數ほどの悲みで一ぱいの心の底からのお願ひです、つれていつて下さい、でなきや、どうしたら、今話した危険を避けて、ひとりで旅が出来るかを教へて下さい。お姫さま、その御愁歎を非常にお氣の毒に存じます。且つは道理に叶つた御決心とも存じますから、よろしうございます、お伴いたします。あなたのお爲にさへなるなら、此身にどういふことが起らうと、かまひません。いつお立ちになりますか？

シルギ

今夜。

エグラ

どこでお待ちしませう？

シルギ

和尙パトリックの菴室で……あそこで懺悔をする積りですから。

エグラ

間違ひなく参ります……さやうなら、御機嫌よろしう！

シルギ

御機嫌よう、深切な士爵エグラムーア！

上下に別れて入る。

第四場 同處

ランスが例の犬を牽いて出る。

ランス

(観客に向つて) ねえ、諸君、うぬの家來(飼犬)がどッ畜生を働きやアがるやうぢやアたまらないやね。しかも小犬の時分から育てた奴がよ、溺死者にならうとするのを助けてやつた奴がよ。現に目の見えねえ弟犬や妹犬は三四疋もやられッちまつたアな！ おれは此奴に教へた、「正に斯くこそ教ふべけれ」と言はれてるやうによ。こいつをお姫さんへお使ひ物にといふの



でね、おれが使ひにやられんだが、お食堂へ入る途端に、奴め突とお姫さんのお膳の傍へ寄つてつて、鶏の脚を一本ちよろまかしやアがつた。お、満座の中で、犬畜生め、平氣で不行儀を働きやアがるんだもの！ 俺ア所謂眞實の犬畜生になるやうなやつにやア、寧ろその、「どんな仕事にも犬」てイ奴になつて貰ひてえんだ。幸ひ俺が犬よりや利口で、やつを罪を脊負つ

てやつたからよかつたんだが、でなかつたら、やつめ恐らく絞め殺されたらう。大丈夫、目に逢ふとこだつたよ。ねえ、君、さうでせう？ 公爵の卓の下に、紳士らしい犬が三四疋ゐたがね、奴め其中へ入り込んだんだ。と……さ、大變！



……排泄つてる程の間に座敷中が臭ぎ附けて「その犬を追ひ出せ」、「その犬は何だ?」、「それ叩き出せ」て騒ぎだ。公爵さまは「絞め殺しッちまへ」といふ。俺は嗅ぎ馴れてた臭ひで以てそれがクラブだてとを覺つたから、撲ち役の男の傍へいつて「君、犬を撲つのかね?」といふと、「うん、さうだ」といふ。「そりや不当だよ、ありや俺がさせたのだ」と斯ういふとね、そいつめ、

いざござなしに、おれを座敷から叩き出してしまつたわな。
 え、家來のために、斯ういふことをする主人が何人あるだらう?
 (ストックス) う? 俺ア奴が窃盗したブッディング(腸詰)の爲に、ほんのこつた、曝し臺に掛けられたともあつたよ、でなきや奴がやられるんだつた。やつが殺した鴛鳥のためにピロリー(他の一種の曝し臺)に立たされたこともあつた、でなきや奴が目目逢つたんだ。(犬に向つて)汝アそれを思つてもゐやがらん。いや、俺ア覚えてる



ぞ、シルギヤ姫さんにお別れする時に、とんだ悪戯をしやがつたのを。しよつちう俺を見てろ、おれのする通りにしろといつてるぢやアねえか? いつ、おれが片脚舉げて、お嬢さんの袴へ小便をひっかけたい? やい、いつそんな悪戯をおれがした? (と犬をこづく)。

プローチヤスとジュリーヤは出る。ジュリーヤはセバスチャンといふ假り名でプローチヤスに奉公しようとしてゐる。

プロチ セバスチャンといふ名か? 氣に入つた。すぐ何かに使つてやらう。
 ジュリ 何でもよろしうございます、出来ます事なら、何でもいたします。

プロチ いや、出来るだらう。(ランスを見付けて)
 おい、こゝら、農坊主? 此二日の間、どこを漂泊してゐたんだ?
 ランス へい、お吩咐の犬をシルギヤさまのと



(ピロリー)

こへ持つてゆきました。

プロチ　で、姫さんが何といつた、あのおれの寶石(可愛い狎)のことを?

ランス　へい、お姫さまは、犬を見て、こりや駄犬だ、こんな御進物には、別段お禮をいぬにも及ぶまいッて。

プロチ　だが、取りは取つたのか、犬を?

ランス　いゝえ、お取りになりませんから、連れて戻りました。

と牽いてゐる犬へこなし。

プロチ　え、この犬を俺からの進物にしたのか?

ランス　へい、あの栗鼠(狎)のはうは市場で獄卒小僧共に盗まれッちまひましたから、それで手前のを御進物にしました、あなたのよりや量が十倍ですから、それだけ御進物としてもお立派です。

プロチ　えイツ、早くいつておれの犬を捜して来やがれ、でないと、もう目通りは叶

はんど。　いッちまへ！　ぐづッかしてやがると、怒るぞ！

ランス　這ふくの體で、犬を牽いて入る。

奴隷め、しよつちう俺に恥を掻かせやがる！……セバスタチャン、汝を抱へたのは、一つは、ちやうど汝ぐらゐの少年で、おれの用を利口に勤めてくれる者が入用だつたからだ。あんな唐變木ちや信用が出来ない。だが、主として汝の容子、立振舞で、俺の占ひが誤らなけりや、育ちのよさや身分や誠實さが證據立てられたからだ。だから、さう心得てゐてくれ。さ、すぐに此指輪を持つてつて、シルギヤ姫に渡して来てくれ。(と指輪を渡して)これはおれを愛してゐた女がくれたのだ。

ジュリ　あなたはお愛しになつてゐなかつたのでせう、其お記念をお捨てになりませうやうぢや。其方は、多分、もうお亡くなりになりましたのでせうね?

プロチ　いや、生きてるだらうよ。

ジュリ あゝあゝ！

プロチ なぜそんな聲を出すのだ？

ジュリ その方がお可哀さうでなりませんもの。

プロチ どうして汝が氣の毒がるんだ？

ジュリ

でも、わたくしは、その方は、ちやうどあなたがシルギヤさまをお思ひなすつていらつしやるやうに、きつとあなたを思つていらつしやつたらうと存じますもの。それをお忘れになつたあなたの事ばッかし、きつと思つておいで、せうもの。あなたが憧れておいでの方は、あなたを何とも思つちやおいでになりません。脊中合せの戀をなさるのがお氣の毒です。で、つい「あゝあゝ！」と申したのです。

プロチ

さア、往つて其指輪を姫に渡して來い、此文も一しよに。(高二重を指さして)あれが姫の居間だ。おれがお約束の肖像を借用したいといつたといふのだ。

受取つたら、おれの部屋へ急いで持つて來い、部屋に一人ッきりで、しよんぼりと待つてゐるから。

入る。

ジュリ

こんな使ひをする女が何人あるだらう？ あゝ、お氣の毒なプローチヤスさん！ あなたは狐を傭つたのよ小羊を飼はせるのに！ あゝ、馬鹿なわたし！ なぜ心からわたしを嫌つてる人が愛しいんだらう！ あの人はあの方を可愛いと思ふからわたしを嫌ふんだ、わたしはあの人を可愛いと思ふから、いとしがらないわけにはいかないのだ。(と指輪をながめて)こりや別れた時に、わたしを忘れないでゐて貰ふためにあげた指輪だ。あゝ、今は不仕合せな使ひ役になつて、手に入れたくもない物を貰ひにゆくのだ、持つてゆきたくもない物を持つて、不實だと刺りたいのを眞實だと讚めて。わたしは旦那さんの眞實の戀人だけれど、眞實な家來にはなれない、

自分に對して裏切りをしない限り。でも、口説き役は勤めませう、成るべく冷淡に。そりや神さまがよう御存じだわ、決して成功はさせたくないもの。……

シルギヤが侍女をつれて出る。

(進んで迎へて) お嬢さま、今日は！ シルギヤ姫さまへ申し上げたいことがあるのですが、御案内下さいませんか？

シルギ どういふ用があるのです、若しわたしが姫だとしたら？

ジュリ 若しあなたがお姫様ですなら、失禮ながら、申し附けられて参りました使ひの趣きをお聴取下さいまし。

シルギ だれから？

ジュリ 主人の士爵ブローチヤスからでございます。

シルギ お、畫像を取りにおよこしなのね。

ジュリ さやうでございます。

シルギ (侍女に) アーシューラ、あのわたしの像をこゝへ……(やがて持つて来た畫像をジュリーヤに渡して) これを御主人にわたして、わたしがさういつたとお言ひ、此影なんかよりも、浮氣な心でお忘れなされたジュリーヤとやらのほうが、すつとお部屋飾りには似合ひませうと。

ジュリ お姫さま、此お手紙をお読み下さいまし。(と一通の文を渡したが、あわてゝ御免下さいまし、つい、うつかり取りちがへました。こちらがあなたへのお文でございます。と前のを取戻して別の一通を渡す)。

シルギ そちらのをもう一度見せておくれ。

ジュリ いけません。どうぞ御免下さいまし。

シルギ さ、これを(と受取つた手紙を突き返す。けれどもジュリーヤはそれを受取らない。と) わたしはおまへの主人からの文は見ません、解つてますから、いろんな言ひ立

てが竝べてあつたり、新しい文句で誓言がしてあつたり。それをあの人が破るのは、わたしがこれを破るよりも容易なのです。

と言ひながら引裂く。

ジュリ お姫さま、此指輪を主人からさしあげますのです。

と指輪を出す。

シルギ それをわたしへよこすとは、いよく恥知らずです。それはジュリーヤとやらに別れる時に、記念に受取つたものと千度も言ひました。たとひあの人の指はどう不實であらうと、わたしの指はそれを穿めたり何かして、ジュリーヤとやらを侮辱するに忍びません。

ジュリ ありがたうございます。

シルギ え？

ジュリ いえ、あの、その婦人をおいたわり遊ばすのを感謝しますのです。可哀さ

シルギ うなああの婦人！ 主人はあんまりな人でございます。

シルギ おまひ其女の人を知つてゐますか？

ジュリ よく存じてゐます、わたくし自身も同様に。其人の事を思ひまして、ほんとに、百たびも泣きました。

シルギ 其人は、多分、ブローチヤスに見捨てられたと思つてゐるだらうねえ、

ジュリ でございませう。それで悲しんでゐるのでございます。

シルギ 非常に佳い標致なの？

ジュリ 只今よりは佳かつたのでございます。主人に愛されてをりました頃には、

自分ではあなた様ほどに綺麗なつもりでゐましたのですが、鏡も見ず、日を除ける假面も捨て、しまひましてからは、風に吹かれて頬の薔薇も顔の白百合も凋みまして、わたくしとおんなじに黒クくなつてをります。

シルギ 長は高いの？

ジュリ

わたくしぐらゐです。と申すのは、五旬節(聖霊降臨節)に種々な餘興の車上(エンタ)で劇が出ました時、わたくしが女形を勤めて、ジュリーヤさんの外被を借用して著て出ましたが、ちやうど役に立つて、皆さんがまるでわたくしの爲に仕立てられたやうだと申されました。ですから、わたくしと同じくらの身長だと存じてをります。其時、お嬢さんが大變泣きました、わたくしの勤めましたのは哀れな役でしたから。それはシ、ヤス王が誓ひを破つて、アリヤドニ姫を捨て、しまつたので、姫が悲歎に暮れるといふ筋なので、それを私が涙を流して生々と演じましたから、其氣の毒な娘さんは感動して酷く泣きました。わたくし死んだはうがよいと存じます、若しもさう思つて演つてました間に、全く其娘さんに同感しませんやうでしたら。さぞ其娘さんが其優しい心を有りがたがりませう。あゝ、可哀さうな、捨てられた娘さん！ おまひの話を聽いて涙が出ました。さ、こゝに

シルギ

巾着(錢入れ)がある。これをおまへにあげます、その娘さんの爲に、おまひが同感してあげておくれた禮です。……さよなら。

シルギヤ 侍女と共に入る。

ジュリ

その娘はあなたにお禮を申しませう、お見知り下さいます時が來たら。……やさしい、美しい、徳の高いお姫さん！ 多分、旦那の望みは遂げられまい、あれほど捨てられた内の奥さんとの關係を尊重なさるんだもの。(と言つたが、自ら嘲るやうに)あゝ、でもまあ戀てものは、どうしてこんなふざけた真似をするか！(受取つた畫像をつくくながめて)これがあの方の肖像よ。かうつと。わたしも斯ういふ髪飾りを持つてたことがあつたつけ。わたしの顔も此畫のやうに可愛らしかつたこともあつた。でも、こりや畫工がお追従を爲過ぎてゐるわ、わたしが己惚れ過ぎてゐるのでなけりや。あの方の髪は淡黄色だけれど、わたしのは全く黄色なの。それだけで心變りをしたの

なら、わたし斯ういふ色の假髪を買つてくるわ。目は玻璃玉のやうに碧い。わたしのも然う。だが、額は低いわ。わたしのはうが高い。あの方のどこをそんなに佳いと思ふのだらう、わたしに無いやうなどこを、若しおろかな戀が盲の神さまでなかつたら？…さ、影坊師、さ、影坊師を持つておいで。これがおまひの競争者だから、お、こんな感覺のない影



が拜まれたり、キッスされたり、可愛がられたり、尊敬されたりするの
か！ 同じく偶像を拜むにしても、
分別の ある人なら、此實體のはうを
本尊にしてくれさうなものだのに。
いや(と畫像に)おまひの御主人はわた
しをやさしくしてくれた、そのお禮

におまひを大事にしませうねえ。さもなきや、旦那に愛想を盡かさすため
に、おまひの見えもせん目なんか、ほんとに、引ッ掻き破つてやるのだけれ
ど！

はひ
入る。

*
*
*
*
*
*
*
*
*
*

第五幕

第一場 ミラン 僧院

エグラムーア 出る。

エグラ

太陽が西の空を金鍍しはじめた、今がちやうどシルギヤさんがバトリック和尚の菴室でおれと會はうと約束をなすつた時刻だ。間違ひはあるまい、戀人は時間はたがへない、其時刻よりも早く行くといふことはあるが。それほど氣の逸るものだ。……(二方を見て)あ、見えた。……

シルギヤ 旅装して出る。

シルギ

お姫さま、今晚は。御機嫌よろしう！

アーメン、アーメン！ さ、早くよ、エグラムーアさん、菴室の塀に添つた裏門までね。目明しに跡を尾けられてゐるやうですから。

エグラ

御心配遊ばすな。森までは三リーグとはありません。あそこまで行けば大丈夫です。

入る。

第二場 同處 公爵邸

ツリーオー、プローチヤス、ジューリヤのセバスチャンと出る。

ツリー

士爵プローチヤス、シルギヤはわしの求婚に對して何といひました？

プロチ お、姫さんの返辭は存外温和でしたが、あんたの御風采に御異議がありました。

ツーリ え、わしの脛が長過ぎるといつたかね？

プロチ い、や、細過ぎるといはれたです。

ツーリ ちや、長靴を穿いて、もつと太く見せよう。

ジュリ (傍)ふ、(長靴なんか穿いて)拍車を當てたからって、戀は厭な方角へは駈けないのよ。

ツーリ わしの顔を何といつたね？

プロチ きれいな方だ(生白い柔弱男だ)といはれました。

ツーリ いや、そりや嘘を吐いてるんだ。わしの顔は黒い(きたない)。

プロチ だが、眞珠(白内障)は綺麗(白)ですよ。ねえ、黒い(きたない)男も美婦人達の目には眞珠」といふ諺がありますよ。

「きれいな」の原文は fair、「白」といふ意味にもなる。「黒い」Black が「汚い」、「醜い」の意味になると同格である。當時の常用語法。「眞珠は綺麗」といふのも「眞珠は白」といふ意味。但し、こゝでは、白内障を俗に眞珠と稱する處から、それを利用して、プローチヤスがツーリオーを翻弄するのである。

ジュリ (傍)ほんとよ。婦人の目を失させる眞珠よ。なぜなら、わたしなんか、それをみるどころか、(まぶしくて)目をつぶつてしまふのよ。

ツーリ わしの話しぶりをばどう評したかね？

プロチ 戦争のお話は、厭だと。

ツーリ だが、戀愛の話や平和な話は好きなのだね。

ジュリ (傍)じつと黙つて、しづかにしてゐなさりや、尙ほ好きでせうよ。

ツーリ わしの勇氣の事は？

プロチ そりやもう疑ふまでもないといはれたです。

ジュリ (傍) 臆病者と解り切つてゐるものね。

ツーリ わしの素姓の事は？

プロチ けつこうなお血續きだと。

ジュリ (傍) さうよ。紳士の血を受けたお馬鹿さんよ。

ツーリ わしの持つてる物(領地)の事をどう思つてゐたかね？

プロチ おゝお氣の毒がつてをられました。

ツーリ どうして？

ジュリ (傍) こんなお抜けさんがそんなに物なんか有つてるかッて。

プロチ さア、お貸し出しになつてゐることをです。

異論が大分あるが、ツーリオールが持つてる物といつたのは、無論、所領地や、財産の事であるのを、プローチヤスは、わざと智

ジュリ (二方を見て) 公爵さまがおいでになりました。

公爵出る。

公爵 おい、士爵プローチヤス！ おい、ツーリオール！ 君たちのうちで、つい

最近士爵エグラムーアに逢つたものがあるかい？

ツーリ 手前は逢ひません。

プロチ わたくしも逢ひません。

公爵 むすめには逢ひましたか？

プロチ いゝえ、お目にかゝりません。

公爵 ちや、むすめは出奔したのだ、あのプランタインの農夫めのところへ。さうしてエグラムーアが一しよだ。きつとさうだ。ローレンス和尚が二人に

慧や才能の意味に解して、抜け作と言ふ意味で、「貸出し云云」といつたのであらう、所領地を他へ貸し出すとに比して。

會つたといふから、和尚が森の中を苦行のため歩いてゐた時に。彼れはエ
 グラムーアをよく知つてゐるのだが、女は多分姫だらうと察したに過ぎな
 い、假面をかぶつてゐたさうだから。それに、姫はバトリックの菴室へい
 つて、今晚懺悔をする筈であつたのだが、あそこにはゐない。それこれ、
 姫は出奔したに相違ない。だから、どうか、もう彼れ此れ論じてゐないで、
 すぐさま馬に騎つて、マンチュアへゆくあの山の麓まで……やつらはマン
 チュアへ逃げたのだから……あの麓まで来てくれ、わしはあそこで待つて
 ゐるから。大急ぎで、頼む、あとから来てくれ。

入る。

ツーリ

こりやアどうも馬鹿な娘だ。後から幸運が来るのに、逃げるといふのは。
 おツかけてゆかう、エグラムーアのやつが憎いから、復讐をするために、わ
 からずやのシルギヤが可愛いといふよりも。

プロチ

(傍)おれはまたシルギヤが可愛いからおツかけよう、一しよに逃げたエグ
 ラムーアを憎いといふよりも。

ジュリ

(傍)わたしもおツかけよう、可愛い人の爲に逃げたシルギヤさんは憎くは
 ないが、可愛がる人を邪魔してやるために。

皆入る。

第三場 森林中

山賊らがシルギヤを引ッ立て、出る。

甲 賊

さ、さ、來な……忍耐して。是非ともお頭のとこへ連れてゆくのだ。

シルギ

こんな事どころではない数々の不幸に出逢つてゐるから、忍耐すること

は、疾うに習つてゐる。

乙 賊 さ、早く引ッ張つてゆきなよ。

甲 賊 一しよにゐた武士はどうしたい？

丙 賊 足の早い野郎なので、逃しッちまつたが、モイゼスとヴレリヤスが追ッかけ

つてる。おい、汝は其女を森の西の端へ連れてつてくれ、あそこにお頭が

ゐるから。おれたちは逃げたやつをおッかけるから。圍まれてゐる森だ。

逃げおほせる筈はない。

乙、丙 入る。

甲 賊 さ、さ、おまひさんは是非頭の洞へ連れてゆかなきゃならん。心配するにや

及ばんよ。立派な心立の人だから、女なんかに無法な事をしやしない。

シルギ (獨語的に) おゝ、ヴランタイン！ かういふ難儀を忍ぶのもあなたの爲です。

引立てられて入る。

第四場 森の他の部面

ヴランタイン 出る。

ヴラン

(木の根に腰掛けてつくづくあたりを見やりて) 人間は習はし次第のものだ！ 今は

此薄昏い荒地を、人跡絶えた森林を、榮華な、賑かな都會よりも好もしく思

つて、だれにも見られず、たつた一人腰掛けて、妙音鳥の哀れな調べに合せ

て、自分の心の苦しみや悲しみを奏でたり、吟じたりしてゐるのだ。おゝ、

おれの胸に住んでゐる戀よ、いつまでも此邸を主なしにしておいてくれる

な、だんく壊敗して、建物が倒れて、何の記憶も残らないやうになるとい

けないから！ シルギヤよ、来てわしを修繕してくれ。やさしい女神よ、